ますます増えるプロバイダー数。複雑を極める料金体系。そして次々に登場する各社独自の新サービスやコンテンツ…。いま各プロバイダーの「性格」はますますわかりにくくなってきている。

1000社時代を本音で切る!

そこで、インターネットマガジンはこれまで蓄積してきたノウハウから風説まで、あらゆる情報を駆使して各プロバイダーの性格を洗い出してみた。しかも、単に性格を分類するだけでなく、

ベンチマークにもとづく各社の「速さ」や「話中度の多さ」など、これまで書けなかった「本音」もまじえて各社のサービスを徹底的に調べ上げた。ここには、各社のサービス案内からは決して読むことのできないデータが詰まっているのだ。いま、ここに宣言する。「1000社時代に迷いなし!」

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

後悔しないプロバイダー選び2000

特集

山崎潤一郎＋椿浩和＋小山貴弘＋編集部

著作権者からPDF版掲載の
許諾を得ていない画像は
掲載していません

©1994-2007 Impress R&D

18137人に聞いた大アンケート

2000年のプロバイダーランキングに異状あり

プロバイダーの性格と実力を見ていく前に、まずは毎年恒例のプロバイダーアンケートの結果を見てみよう。最近の人気ランキング上位のプロバイダーは不動のように見えるが、よく調べると時代の動きに合わせた変化が始まっている。昨年までと同じ選び方でいいのだろうか。時代が変わればプロバイダーの選び方も変わる。人気度やユーザーの声を参考にして、自分なりに現在のプロバイダーの特徴をつかんでおこう。

2000年はODNが再びナンバーワンに

今年のプロバイダー人気ランキングの1位には、昨年春1位、秋3位のODNが返り咲いた。ODNのほかに、OCN、DION、NEWEBといった電話会社が母体のプロバイダーの伸びが目立つ。全国の市外局番にアクセスポイントを設置したOCNが3位に入り、電話代込みのコースが人気のDIONが急上昇して6位。NIFTY SERVEとInfoWebの統合で誕生した@niftyやSo-net、BIGLOBEなどの大手家電メーカー系のプロバイダーは堅実にランクイン。格安料金のTikiTikiインターネットやアルファインターネットも人気だ。一方でIIJ4UやASAHIネットなどの老舗プロバイダーは順位を落としている。96年のランキングから残っているプロバイダーはたった4社となったが、99年以降の上位10社は安定した傾向にあると言える。

無料プロバイダーとCATVが躍進

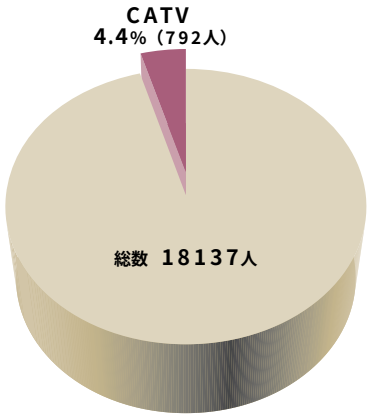
新しく20位以内にランクインしたプロバイダーの中では、何と言っても昨年秋に誕生したばかりの無料プロバイダーlivedoorが目立つ。イギリスなどで主流となっている無料プロバイダーが日本にも根付くきざしだろうか。21位以下に目を向けると、ZAQ、ALLNET、東急ケーブルテレビ、KATCHといったCATVインターネットプロバイダーがついに一般のプロバイダーと肩を並べるようになった。CATVインターネットのユーザー数は、合わせて回答者数全体の4.4%を占め、インターネットは常時高速接続で利用する時代にすでに入っていることを感じさせる。

2000年人気プロバイダーベスト20 （総数 18137人）

順位	プロバイダー名	人数	満足度1	満足度2	99秋	99春	98	97	96
↑1	ODNダイヤルアップ	1785	15.4%	76.4%	↓3	↑1	●6	-	-
↓2	@nifty	1577	9.6%	67.2%	↑1	↑2	↑4	↓13	4
↑3	OCNダイヤルアクセス	1368	13.2%	61.5%	↓9	↑8	●20	-	-
↓4	So-net	1263	16.0%	76.2%	↑2	↓3	←1	↑1	8
↓5	BIGLOBE	1046	12.5%	68.0%	←4	↓4	↓3	●2	-
↑6	DION	1025	17.6%	76.9%	↓15	●14	-	-	-
↑7	ぷらら	656	22.9%	84.8%	←10	↑10	●17	-	-
↓8	DTI	549	38.6%	89.1%	←5	↓5	↑2	●6	-
↑9	NEWEB	434	18.9%	75.1%	↑12	●13	-	-	-
↓10	DreamNet	401	13.7%	67.1%	←6	↓6	↑5	●7	-
↓11	Panasonic Hi-HO	386	22.0%	83.4%	↑8	↑9	●15	-	-
●12	TikiTikiインターネット	334	23.7%	81.1%	-	-	-	-	-
●13	livedoor	288	26.7%	80.2%	-	-	-	-	-
↑14	MSN	254	9.8%	48.8%	-	↓19	-	●15	-
↓15	AT&T WorldNet Service	237	34.6%	89.9%	↓14	↑11	↑12	●20	-
↑16	AOL	232	9.1%	58.2%	-	●17	-	-	-
↓17	IIJ4U	184	29.9%	76.1%	↓13	↓12	↑7	↓9	5
●18	アルファインターネット	183	24.0%	79.2%	-	-	-	-	-
●19	JustNet	166	13.3%	79.5%	-	-	-	-	-
↓20	ASAHIネット	165	17.0%	74.5%	↑11	↓15	↓10	↓5	3

満足度1は「十分満足」と答えた人の割合、満足度2は「十分満足」または「まあまあ満足」と答えた人の割合
●はその年初めてランクインしたプロバイダー

CATVユーザーの割合



21位～50位のプロバイダー

21	InfoSphere
22	Highway Internet
23	SANNETインターネットサービス
24	東京電話インターネット
25	ZAQ
26	interQ
27	生協インターネット
28	ALLNET
29	KCOM
29	MTCI
31	Webしずおか
32	リムネット
33	ALLESNET
34	東急ケーブルテレビ
35	BEKKOAME/INTERNET
36	TOKAIネットワーククラブ
36	KCN-Net
38	GOL
38	ゲートウェイネット
40	3Web
41	BIWALOBE
42	PEOPLE
43	デオデオインターネットサービス
44	ドルフィンインターネット
45	Momoたろうインターネットクラブ
46	INTERLINK
47	ネスク・インターネット
47	kyoto-Inet
49	KATCH
49	U-netSURF
49	InfoAomori

CATVインターネット（シー・エー・ティー・ブイ・アイ・インターネット）：CATV（ケーブルテレビ）網を利用した、高速なインターネット接続を行うサービス。
全国で多くのCATV事業者が月額6,000円程度で数百Kbpsから数Mbpsでの常時接続環境を提供している。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1996-2000 Impress R&D

満足度ではAT&TとDTI

プロバイダーに対するユーザーの満足度は、例年と同じくDTIとAT&T WorldNet Serviceが高い。右のグラフは「十分満足」と「まあまあ満足」を合わせた数字だが、「十分満足」と答えた人だけでもDTIで38.6%、AT&T WorldNet Serviceで34.6%になる。両社はともに回線のスピードやつながりやすさに定評があり、加えてAT&T WorldNet Serviceでは月額固定2,000円という料金の安さが満足度を押し上げているようだ。ただし、満足度と人気度は必ずしも連動していないようで、この2社はともに人気ランキングでは順位を落としている。人気度の高いプロバイダーは満足度では低い傾向にあるが、ぷららは人気度と満足度をともにアップさせている。

インターネットユーザーの行動に大きな変化が

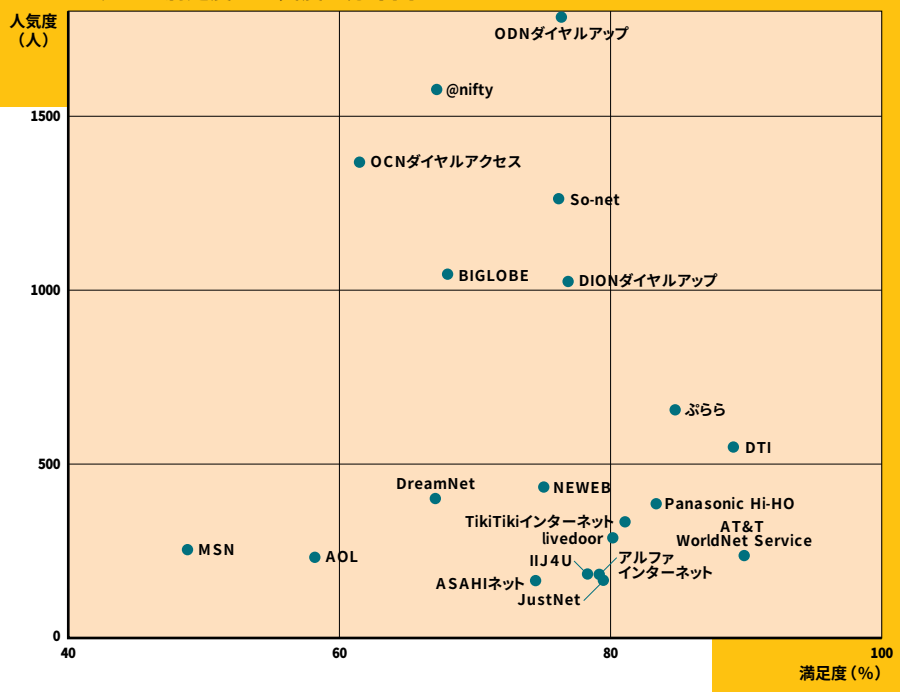
今回のアンケート結果からユーザーがインターネットを利用するおもな目的を集計したのが4のグラフだ。ここで注目されるのが、「同じサイトをチェックする」が「不特定のウェブを見て回る」よりもかなり多いことだ。漫然と「ネットサーフィン」をするよりも、特定のサイトを定期的にチェックする利用法が中心になっていることがわかる。

また、オンラインショッピング、オークション、金融サービスを利用する人は、最近の各種調査と比べても高い割合を示しており、個人レベルでの電子商取引が「当たり前」の時代になったと言っていい。特にオンラインショッピングは、利用経験者が46%となり、「利用を検討中」まで含めると50%を大きく超える。一方でこうしたサービスを「利用するのは不安」と感じている人は約30%にもなり、セキュリティーが依然として問題になっていることが見て取れる。

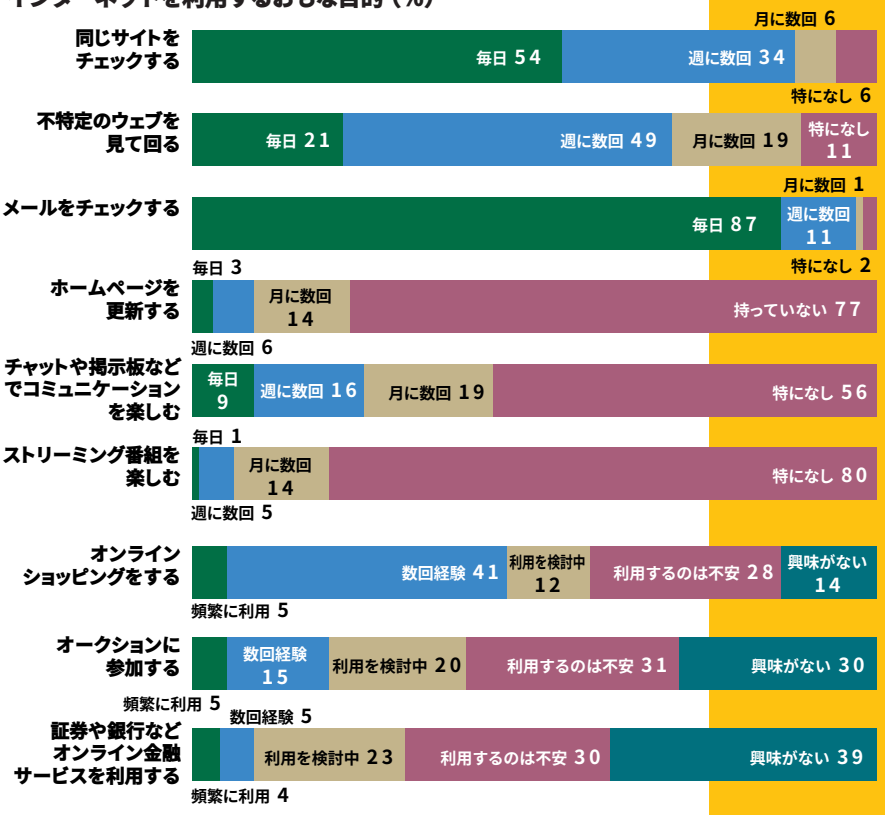
今のプロバイダーに求められるものとは、料金の安さやスピードだけでなく、ユーザーのこうした行動や不安に的確に応えるサービスの提供にあると言えるだろう。

なお、今回のアンケート回答者の男女比率は、男性74.9%、女性25.1%ととなり、昨年の男性82.7%、女性17.3%と比べて女性の割合が大きく上昇したことも報告しておきたい。

プロバイダーの満足度と人気度の分布図



インターネットを利用するおもな目的（%）



アンケートの概要

インプレスのプロバイダーポータルサイト「インプレス・プロバイダー・ガイド」N-Jumpで毎月行われているアンケートを利用。「第6回特別編」の結果のうち、3月3日から15日までのデータを元にした。

N-Jump provider.impress.co.jp

電子商取引：ネットワーク上で電子的に決済情報を交換して行う商業上の売買行為のこと。小売市場に限らず、企業対企業や個人対個人の取引も含む。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

いまはじめて明かされる各社の位置付け

プロバイダーの成り立ちから各社の“性格”を読みとる

1000社時代のプロバイダー選びは、ただやみくもに各社のサービス内容を見比べていたのではうまくいかない。すべてを比較検討することは事実上不可能なので、各プロバイダーの「成り立ち」からある程度体系的に特徴を分類して把握することが大事になる。そして、そのなかから自分のニーズに合った料金やサービスを絞り込んでいけば、これまでよりもずっとラクに自分にとってのベストプロバイダーが見つかるだろう。

こう見るのが正しい
これがプロバイダーの性格分類だ!!

各社の成り立ちから、その性格を分類したのがこの図だ。それぞれの円は各タイプのグループを表す。重なっているところは、両方の性質を合わせ持っていることを示している。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

プロバイダーの性格がわかれば もっと選びやすくなる

ついにプロバイダーも1000社近い時代となり、そのすべての特徴をここで網羅するのは不可能になってきた。そうしたなかで自分に最適の1社を見つけるのは難しいと感じるかもしれない。しかし、数多くのプロバイダーにもそれぞれ“性格”があり、それらはタイプ別にいくつかのグループに分けることができる。そのグループごとの性格を見極めて、それが自分に合っているかどうかを考えれば、実は選択肢はグッと狭まり選びやすくなる。

そこで、インターネットマガジンが各プロバイダーの「成り立ち」をもとに大きく3つのタイプに分類してみたのが左ページの図だ。これは各社がそれぞれどんな会社を経営母体としているかというから単にグルーピングしたものであるが、おもしろいことにここからそれぞれのグループの性格が浮かび上がってきた。もちろん、各グループ内のすべてのプロバイダーがまったく同じ性格を持っているわけではないが、おおむねこれに当てはまるだろう。特にアンケートの上位30社くらいまではその傾向が顕著だ。こうした特徴がわかれば、ここで紹介しきれなかったプロバイダーについて考えるときでもおおよその性格は推測できるようになる。

それぞれのタイプの 性格を理解する

では、各タイプにはそれぞれどんな特徴があるのかについて見てみよう。

通信事業者型

まず、「通信事業者型」は、月額固定料金制でだいたい2,000円前後の料金体系をとっているところが多い。おもにODNやNEWEBのような通信キャリアが運営している場合が多いのが特徴だ。通信キャリアは自前で回線を持っているために、こうした割安な定額料金でもサービスが運営できるというわけだ。

家電メーカー型

次に「家電メーカー型」には、BIGLOBEや@nifty、So-netのように大手家電メーカーの系列企業が運営しているサービスが目立つ。このタイプの特徴として豊潤な資金力を背景に充実したコンテンツを用意しているところが多いということが挙げられる。また、さまざまなニーズに対応できるように「月5時間まで1,000円」とか「月150時間まで3,000円」というように段階的な幅広い料金プランをとっているところが多い。こうした特徴に大手メーカーのブランド力や信頼感が加わるため、数多くの会員が集中するメガクラスの巨大サービスが集まっているのも特徴だ。ある意味では、現在の主流タイプとも言えるだろう。

ベンチャー型

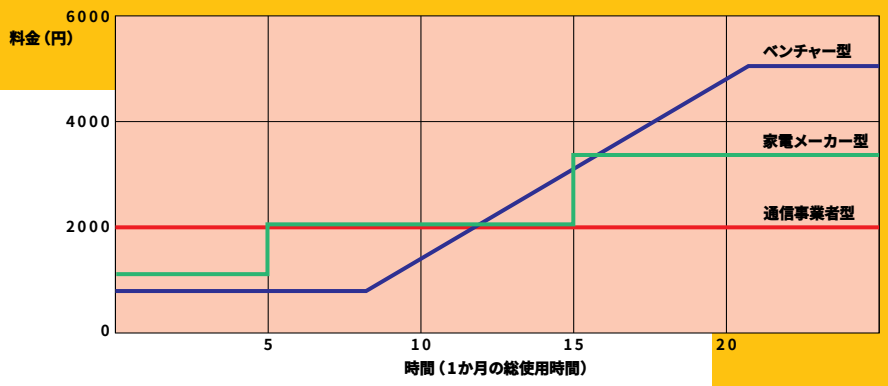
「ベンチャー型」というのは、いわゆる独立系のプロバイダーのことだ。基本的には技術力や品質の高さをウリにしており、コンテンツはあまり充実していないところが多い。料金体系は従量制が多いが、固定料金制をとるところもあり一様ではない。従量制でも、ある程度の上限金額以上はいくら使っても課金されない「キャップ制」を取るところもある。IIJやDTIなどがこのタイプだ。他の2タイプと比べると料金は割高に感じられるが、その分1ポートあたりの加入者数を制限したり、障害についてもホームページでその状況を公開するなど、一般に品質について気を使っていると言われている。

自分の目的に合わせて タイプを選ぶ

こうして各タイプの性格を把握できたら、あとは自分の目的に合わせてどのタイプにするかを選び、その中から自分の住んでる市内にアクセスポイントがあるかということや料金、または「PIAFSが使いたい」というような特定ニーズを満たしているかどうかなどを考えて選んでいけば、迷うことなく自分にとってのベストプロバイダーを選べるだろう。

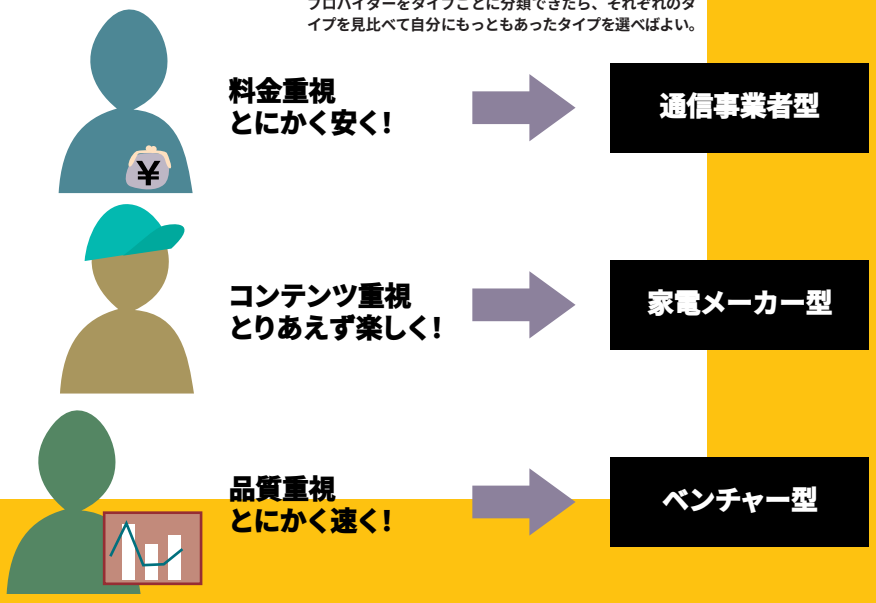
それでは、次のページからは、各タイプごとにより詳細な分析をして、そこに当てはまる個々のプロバイダーの「特徴」と「品質」についてもじっくりと調べ上げていこう。

各タイプの料金体系の一例（傾向）



目的に合わせてタイプを選ぶ

プロバイダーをタイプごとに分類できたら、それぞれのタイプを見比べて自分にもっともあったタイプを選べばよい。



キャリア：回線とそれに関する設備を所有する通信事業者全般。NTTやKDDなどの第一種通信事業者のことを指す場合もある。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

目で見てわかる

プロバイダーの真の実力が今明らかに！

ビジーはなくなったのか
品質の基本はいまでも話中度

1995年に開始されたNTTの電話割引サービス「テレホーダイ」は、ユーザーの通信コストを一気に引き下げたが、同時に23時以降はアクセスポイントが大混雑するという弊害も生むこととなった。どのプロバイダーも、テレホーダイ時間でも話中にならないように努力しているのは間違いない。しかし、現実にはどのような状況なのだろうか。実際の調査からアクセスポイントの現状を見てみよう。

プロバイダーのパフォーマンスとは

プロバイダーを選ぶ際、料金よりも重要になるのはそのプロバイダーの「品質」だ。そのプロバイダーは料金に見合ったサービスを提供してくれるのかというコストパフォーマンスの問題だ。どんな商品を選ぶ場合でもそうだが、値段が安くても品質が悪いものはおすすめとは言いがたい。では、プロバイダーにとっての品質とはどのようなものなのだろうか。

まず考えられるのは、アクセスポイントの品質だ。つまり、接続したいときに話中にならないかという点だ。特に、テレホーダイの時間帯になるとアクセスポイントが大混雑で接続できない状況になることが多い。いくら月々の料金が安いプロバイダーであっても、接続できないのであればお金の無駄でしかない。

さらに重要になるのは、接続したあとの回線の品質だ。つまり、実際にページを見る際にどのくらい快適に表示されるかという点だ。いくら待ってもページが表示されないという状況では、これまた電話料金と時間の無駄だ。もちろん、インターネットはスピードが保証されたネットワークではない。ページがなかなか表示されないのは、プロバイダーの責任ではなく、そのページが置かれているサーバーの問題であることも多いだろう。しかし、だからといってどのプロバイダーに接続してもスピードが同じというわけではない。見たいページが素早く表示される、本質的にはこれこそがプロバイダーの品質と言っていいだろう。

今回は、編集部で実際にプロバイダーと契約した上で調査を行ってみた。アクセスポイントがもっとも混雑すると言われる23時台に接続できるかを調べた「回線話中度調査」と、人気コンテンツが実際に表示されるまでの時間を計測した「コンテンツ快適度調査」の2点だ。料金だけではわからない、真のプロバイダーの実力とはどのようなものなのかを、この2つの調査から見てみよう。

つながらなければ始まらない －回線話中度－

まずは、プロバイダーの混雑状況となる「回線話中度」の調査から見てみよう。右ページのグラフは、人気プロバイダー30社の主要アクセスポイントの混雑状況をまとめたものだ。23時から0時の間に毎日1回ずつ電話をかけ、1週間のうち話中になったのが何回あったかを表している。

調査した30社のうち、12社がすべてのアクセスポイントで話中ゼロという結果となった。全体でも、279か所のアクセスポイントのうち、229か所は話中はゼロだった。また、21時台と1時台にも同様の調査を行ったが、どちらの時間帯も話中はほとんど発生しなかった。23時台以外では話中が問題になることはほとんどないと考えていいだろう。

しかし、グラフを見ればわかるように、毎日のように話中が発生しているアクセスポイントも存在している。現在では、多くのプロバイダーがアクセスポイントの状況をホームページ上で公開しているので、契約前にこうしたページをチェックすれば、こうしたトラブルは未然に防げるだろう（218ページ参照）。また、現在利用しているプロバイダーで話中が多くなってきた場合にも、こうしたページをチェックすることをおすすめする。一般的に、新しいアクセスポイントほど混雑が少ない傾向にあるので、プロバイダーからのアクセスポイントのお知らせの確認は常に注目しておくのが重要だ。

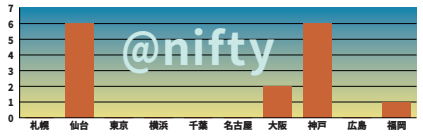
回線話中度の調査方法：●ISDN回線を用いて毎日23時台に各アクセスポイントに接続し、TAからのリザルトコードが「BUSY」と表示された場合のみを話中と判断した。●対象プロバイダーは、インプレス・プロバイダー・ガイド Yjump で実施したアンケートの結果（1999年10月～2000年1月）から、上位30社を選出。●対象アクセスポイントは、札幌、仙台、東京、横浜、千葉、名古屋、大阪、神戸、広島、福岡の10都市で、複数の電話番号がある場合にはもっとも新しいもの選択した。また、DION についてはコミコミコースの2つの電話番号について調査した。 Yjump provider.impress.co.jp

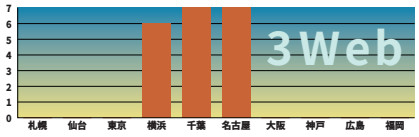
リザルトコード：モデムやTAなどから送られた命令に対する反応としてパソコンに送られる文字列のこと。接続完了の場合には「CONNECT」、話中の場合には「BUSY」といった文字列となる。

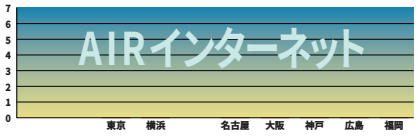
インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

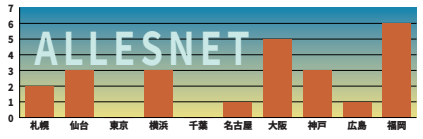
人気プロバイダー30社
回線話中度調査

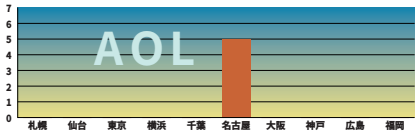
このグラフは、3月2日から3月8日までの7日間、23時台に各プロバイダーのアクセスポイントに電話をかけて、話し中で接続できなかった回数を調査した結果です。同一地域で番号が複数あるプロバイダーについては、各プロバイダーのホームページを参考にして、最新と思われるアクセスポイントについて調査しました。

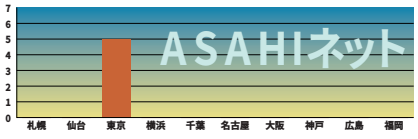


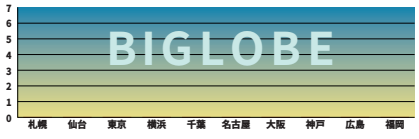


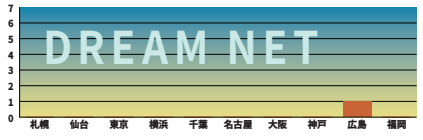


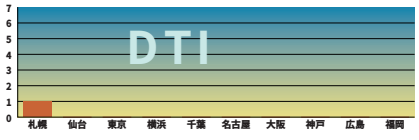


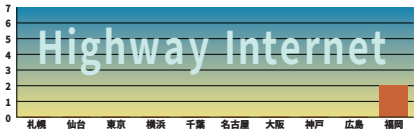


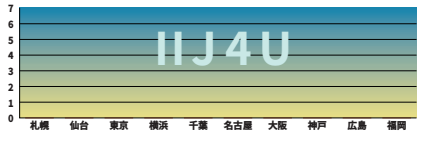


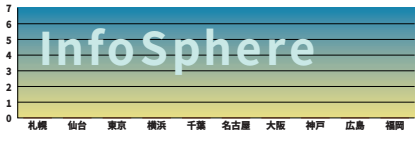


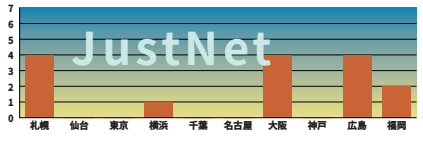


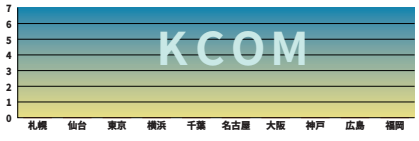


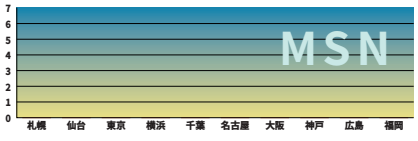


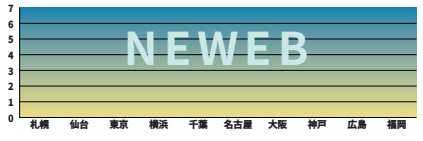


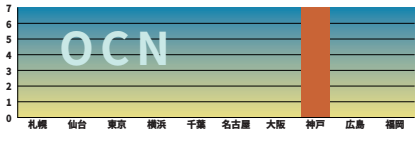


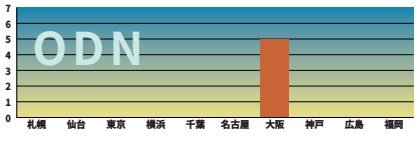


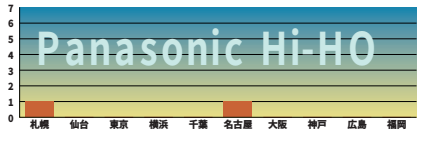


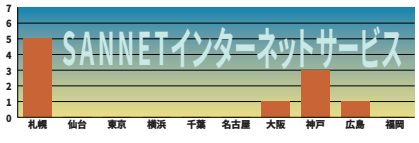


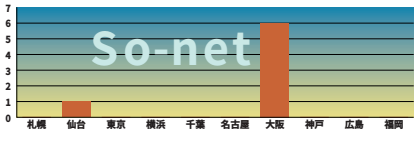


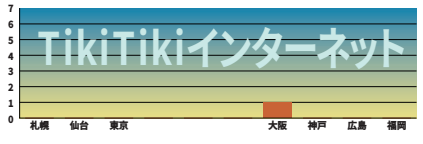


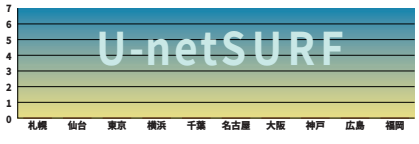


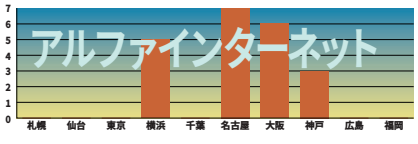


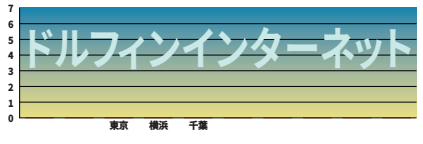


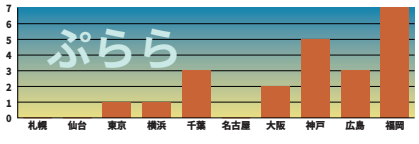


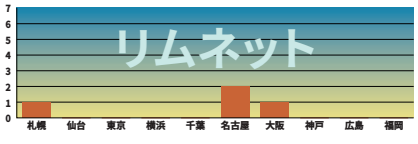












インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

人気コンテンツへの「近さ」を探る

アクセスが快適なプロバイダーはここだ

プロバイダーの実力は、どれだけ快適にページが表示されるかで決まると言ってもいいだろう。しかし、こうしたプロバイダーの「スピード」は、実際につないでみるまではわからないのが実情だ。そこで、今回は実際に各プロバイダーに接続して、人気コンテンツの表示速度と、各コンテンツへの「距離」を調べてみた。新しいプロバイダー選びの基準として、ぜひ参考にしてもらいたい。

コンテンツの表示速度

今回の特集では、従来の話中度以外にもう1つ、プロバイダーの実力を調べるために「コンテンツ快適度調査」を行った。これは、実際に各プロバイダーにダイアルアップして、人気コンテンツを表示するのにどのくらい時間がかかるかを計測したものだ。

調査は3月8日から3月13日までの5日間に、2時間おきにプロバイダーにダイアルアップして、人気コンテンツのトップページ（HTMLと画像ファイル）をダウンロードするのにかかる時間をそれぞれ計測して合計を出した。調査には同スペックの4台のウィンドウズマシンを使い、USB接続のTAから64Kbpsで接続した。調査するプロバイダーについては話中度調査と同じ30社を選んだが、AOLは計測に使用したプログラムの関係でデータが取れなかったため、調査結果は29社となっている。コンテンツについては、Nielsen//NetRaitings Jump の調査結果をもとに、人気の高い20のコンテンツを選んだ。ただし、集計にあたっては数値が極端に変動したネットスケープ（home.netscape.com）のページを除く19か所の合計値とした。

以上のような調査を行った結果の平均値をとると、もっともコンテンツへのアクセスが速かったのはAT&T WorldNet、2位はぷらら、3位はASAHIネットという結果になった。また、以降の4位から10位ぐらいまではそれほど差のない範囲に収まっている。

ただし、この調査は「人気コンテンツへのアクセス速度」を調べたものなので、インターネット全体に対して同じような傾向になるとは限らない。調査対象を変えれば全く違う結果になるだろうし、調査は東京アクセスポイントで行っているので、地域によって異なる結果になることも予想される。しかし、この数字は実際にダイアルアップして調べた結果であり、それぞれのプロバイダーがどのくらい人気コンテンツを見るのに快適かどうかを表す指標としては有効なものと思われる。また、この調査は継続して行っていく予定なので、今後の調査結果がどのように変化していくかという点にも注目していきたい。

Jump www.netratings.co.jp

コンテンツの「近さ」に注目

216～217ページの「プロバイダー＆人気コンテンツ接続マップ」では、プロバイダーから各コンテンツに対してtracerouteをかけ、各コンテンツはどのプロバイダー（またはホスティングサービス）を経由しているかを調べてまとめたものだ。ここではさらに対象を広げ、人気の高い40のコンテンツについて調査した。

自分が入っているプロバイダーからよく見るコンテンツまで、実際にどのような経路を通るのかをたどってみてほしい。国内のコンテンツの場合であれば、直接つながっていればそこを通り、そうでなければIXを通る、というのが一般的な経路だ。ただし、プロバイダーとコンテンツの間が共通のIXにつながっていない場合には、もう少し複雑な経路となる。たとえば、ASAHIネットからインターネットマルチフィードまでは、

ASAHIネット→NSPIXP2→OCN→マルチフィード

というような経路になる。また、海外コンテンツの場合には、自社の海外線だけでなくNEWEBやC&W IDCといった国際通信キャリアの線を通ることも多い。

コンテンツが快適に見られるかどうかは、こうした経路の「近さ」が重要になってくる。経由地が少なければ、それだけネットワークの混雑の影響を受けにくいためだ。もちろん、プロバイダーの中にコンテンツがあればそれがもっとも有利な状況となる。現状では、InfoSphereやPSINetといったプロバイダーがこれに相当する。現在のところ、プロバイダーからコンテンツまではIXを経由する場合が多いが、今後はこうしたコンテンツの集まる場所に直接接続する形態が増えてくるものと思われる。また、コンテンツを高速に配信するデータセンターと呼ばれる設備の建設も相次いでいる。

これまで、プロバイダーにとってのバックボーンとは、IXや海外への回線が重要視されてきた。本誌でもこれまでは「プロバイダー接続マップ」として、プロバイダー間の回線を記載してきた。しかし、これからは「コンテンツまでの回線をどれだけ確保しているか」ということも考慮する必要があるだろう。各種コンテンツが集まるデータセンターにどのくらいの回線でつなぐのか、あるいは自社でデータセンターを構築するのか。こうした点が、これからのプロバイダー選びの重要な要素になってくるのは間違いない。また、CATVやADSLのような高速アクセス回線の普及は、さらにこの傾向を強めるだろう。2000年からのプロバイダー選びは、コンテンツにどれだけ快適にアクセスできるか、という点にぜひとも注目してほしい。

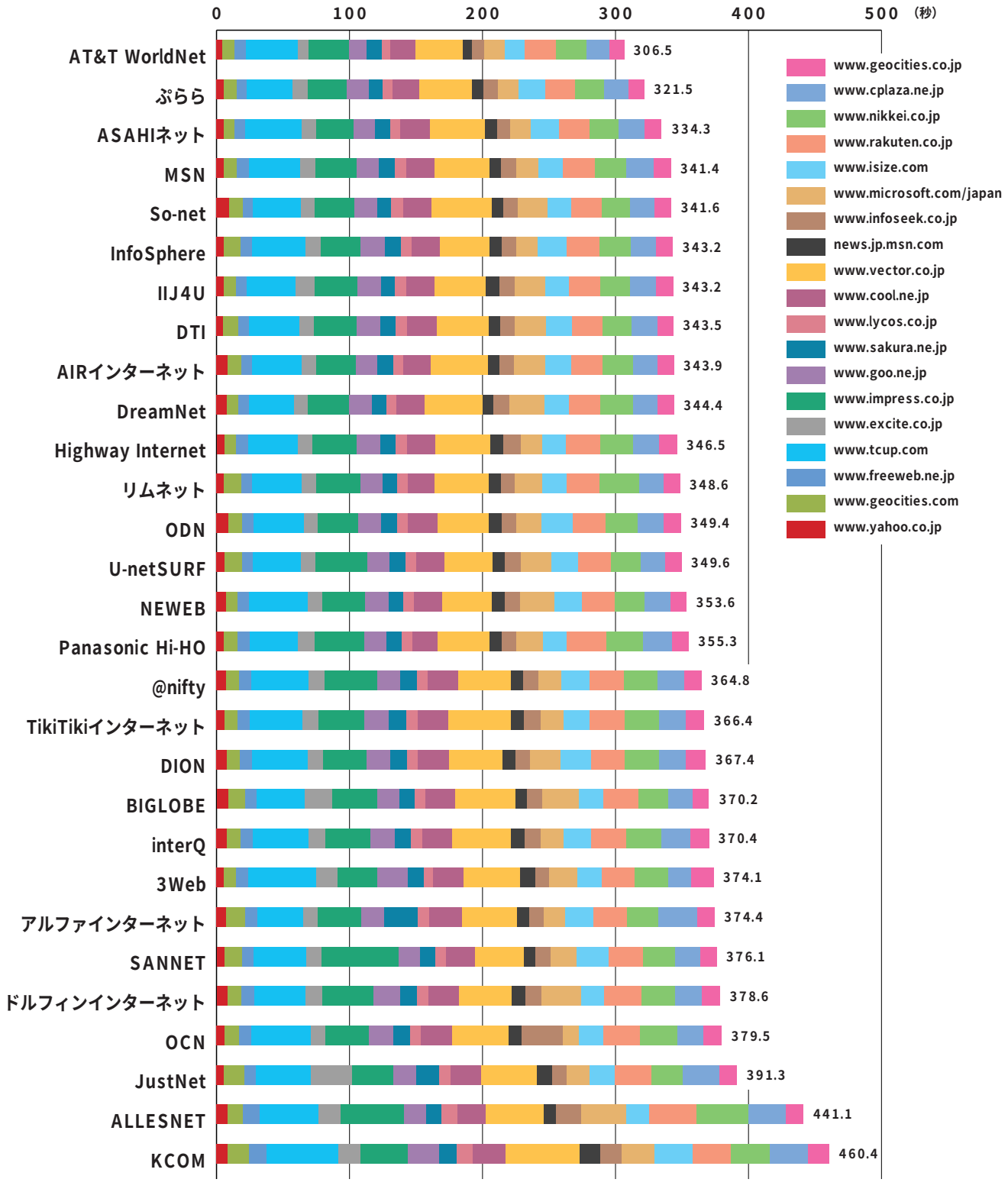
コンテンツ快適度の調査方法：●ISDN回線を用いて毎日2時間おきに接続し、グラフ右のコンテンツのトップページからHTMLと画像をダウンロードするのにかかった時間を計測した。●23時から2時までは、数値のばらつきが大きいため、集計からははずした。●対象プロバイダーは、インプレス・プロバイダー・ガイド Jump で実施したアンケートの結果（1999年10月～2000年1月）から、上位30社を選出（AOLを除く）。●対象は東京のアクセスポイントで、複数の電話番号がある場合にはもっとも新しいもの選択した。また、DIONについてはコミコミコースの電話番号について調査した。 Jump provider.impress.co.jp

traceroute（トレースルート）：ネットワーク上の他のマシンまでの経路を調べるためのプログラムの名称。ウィンドウズ95や98にも「tracert.exe」というプログラムが標準で用意されている。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

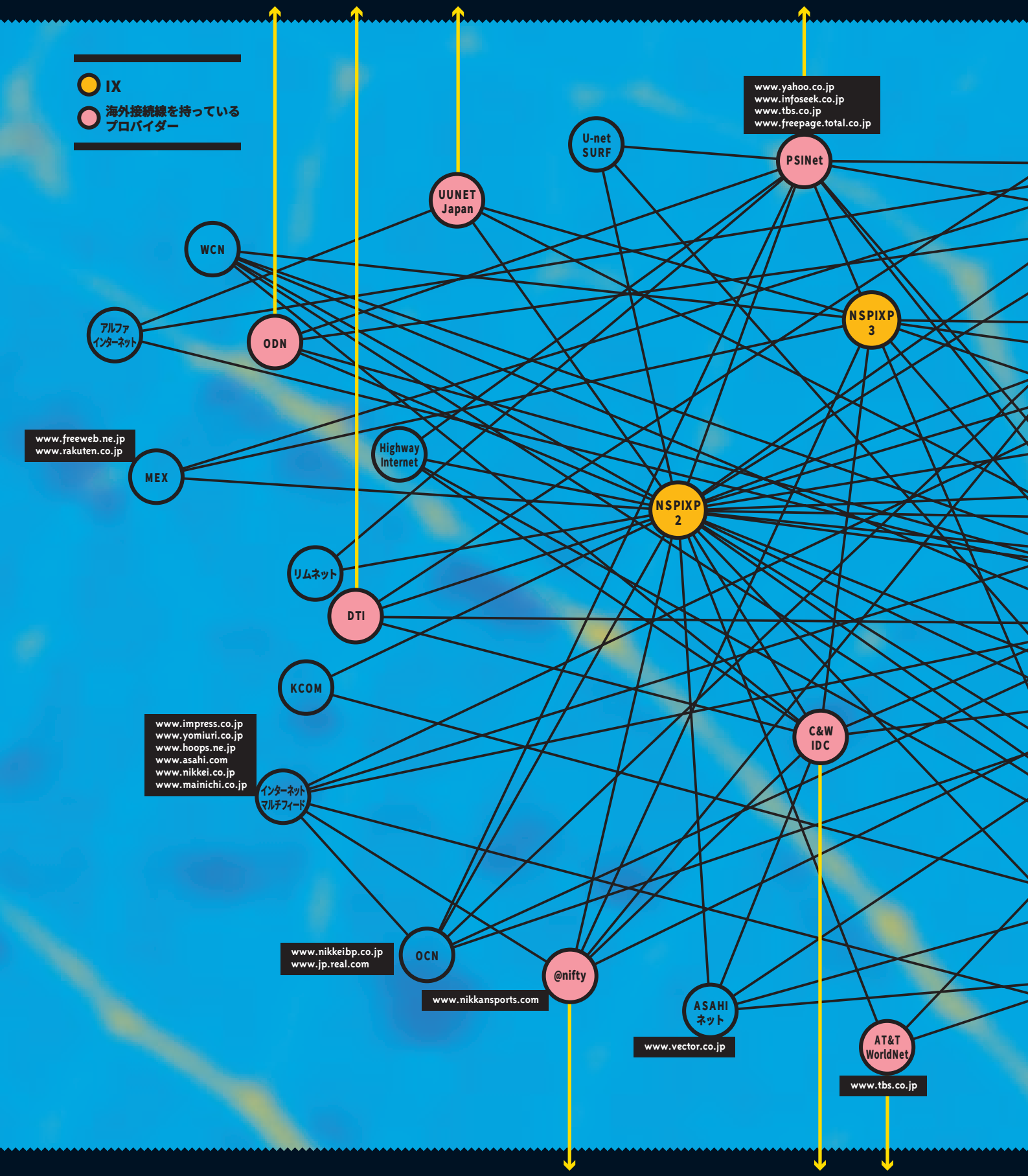
人気プロバイダー30社
コンテンツ快適度調査

このグラフは、3月8日から3月13日までの5日間に、2時間おきに各プロバイダーにダイアルアップして、人気コンテンツ19か所のトップページを表示するのにかかった秒数を計測したものです。グラフの右の数字がかかった時間の平均値となります。



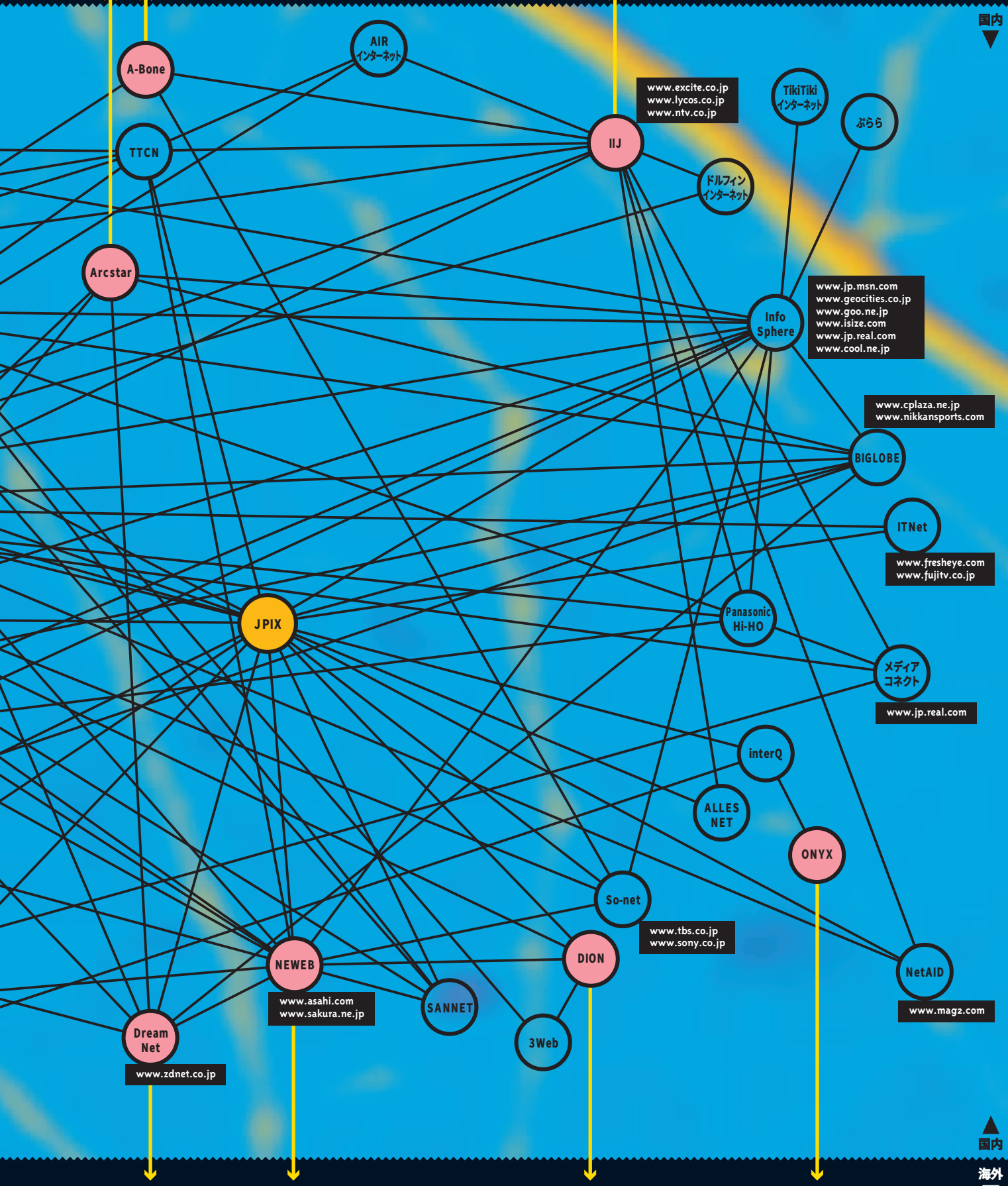
インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

プロバイダー＆人気コンテンツ接続マップ



インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

図の見方：●この図は、2000年3月現在の主な接続プロバイダーとコンテンツ間の接続関係を表したものです。●作成するにあたっては、各プロバイダーからのTracerouteコマンドによるテストの結果をもとにしています。●プロバイダーはインプレス・プロバイダー・ガイド Jump provider.impress.co.jpの「ユーザーが選ぶプロバイダーランキング」をもとに、上位30社を抽出しています。●コンテンツはNielsen//Netratings Jump www.netratings.co.jpの調査結果をもとに、プロバイダー系コンテンツを除く上位40サイトを抽出しています。



www.microsoft.com
www.tcup.com
www.geocities.com
www.asahi.com
home.jp.netscape.com
xoom.com
members.tripod.com
members.tripod.co.jp
www.yahoo.com
www.passport.com
www.virtualave.net

インターネットマガジン 2000年5月号
©1994-2007 Impress R&D

編集部が
本音で切る！

料金＋パフォーマンス＋タイプでベストチョイスが決定！

テレホタイムをどう乗り切るかがポイント

通信事業者型の固定料金制はここをチェック

人気ランキングでトップを走るODNに代表されるのが、一定の料金でいくらでも接続できる固定料金制だ。中でも、1か月2,000円以下という低額のプロバイダーが人気を集めている。しかし、低額固定料金制と言えば「テレホーダイ時間につながらない」という悪いイメージが付いて回る。はたして本当にそうなのか、どうすればうまく使いこなせるのか、じっくり調べてみよう。

固定料金制をとるプロバイダーとは

時間を気にせず好きなだけ接続しても支払う料金が決まっている固定料金制は、この上ない安心感を与えるものだ。特にテレホーダイを利用してチャットのように長時間接続するサービスを楽しんでいる人であれば、つなげばつなぐほど青天井に課金されていく基本料金＋従量課金のプロバイダーは怖くて利用できないだろう。また、ユーザーからしてみれば、電話料金が従量課金制であるので、せめてプロバイダーの接続料金だけでも固定制であって欲しいと思うものだ。

大手のプロバイダーで低額な固定料金制をとっているところと言えば、ODNとNEWEBに代表される。この2社（母体はそれぞれ日本テレコムとKDD）は第1種通信事業者、つまり電話会社だ。もともと回線などの設備を自前で持っているために、回線を持たない第2種通信事業者よりも低価格で接続サービスを提供できる。電話会社以外にも、中小プロバイダーや地方プロバイダーには低額の固定料金制をとっているところが多いが、これは、会員数がそれほど多くないためアクセスポイントの増強など設備投資が少なくて済むためと思われる。低額固定料金制のプロバイダーのチェックポイントは、会員数と設備のバランスが取れているかどうかという点だ。

安価なプロバイダーの問題点

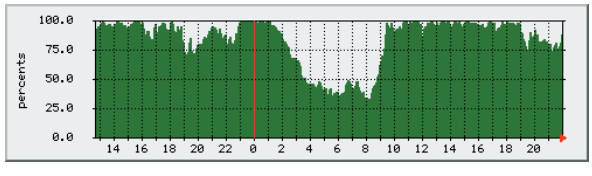
従量課金制のプロバイダーには、固定料金制を採用しない特別な理由があるのだろうか。彼らが口を揃えて言う理由に「すべてのユーザーに均一にサービスを提供したいから」というものがある。これは、固定制ではテレホーダイ時間になると一部のユーザーだけでアクセスポイントの限られたポートを長時間占有してしまう問題を言っている。従量課金だとこの問題が回避できるというのだ。これは確かに一理ある。

固定料金制のプロバイダーのポート占有状況を見ると夜の11時頃から深夜2時ごろまでのわずか3時間の間だけ突出したピークを示している。テレホーダイと組み合わせて、つなぎっぱなしで使うユーザーが多いためだ。

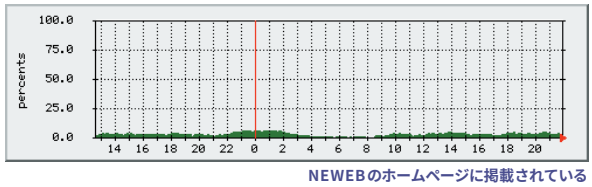
このような状況は、プロバイダーには悩みの種になっている。プロバイダーはこの時間帯の利用状況に合わせた設備の増強を行う必要に迫られるが、1ユーザーにつき1ポートを用意するわけはいかない。コストの著しい増加を招き、経営を圧迫しかねないからだ。もしプロバイダーが設備を増強しないまま安価な固定料金で会員を集めれば、アクセスの集中によって品質の悪化をまねくだろう。低額固定料金制のプロバイダーには、こうした「安かろう悪かろう」の危険性が付いて回る。

固定料金制プロバイダーへの入会を検討する場合、最寄りのアクセスポイントの混雑状況を確認しておくといい。最近のプロバイダーはホームページで各アクセスポイントの混雑状況を公開している。利用時間帯にビジーが少ないようであれば、お得な選択と言えるだろう。

東京第1アクセスポイント



東京第29アクセスポイント



NEWEBのホームページに掲載されている
アクセスポイントの回線使用状況

第1種通信事業者：電気通信事業法に基づいて電気通信サービスを行う事業者のうち、通信回線設備を所有するもの。電話会社やケーブルテレビ局が該当する。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

固定料金制の攻略法

問題を抱えていると言っても、追加料金のかからない料金体系を選びたい人は多いだろう。どうすれば固定料金のプロバイダーをうまく使いこなせるだろうか。

まず、インターネットの利用が昼間に集中していて、23時から2時にはあまりアクセスしないという人には、固定料金制はお得な選択だ。タイムプラスやi・アイプランのようなNTTの割引サービスを使えば、テレホーダイでわざわざ混雑する時間につながなくても、電話代を節約できる。

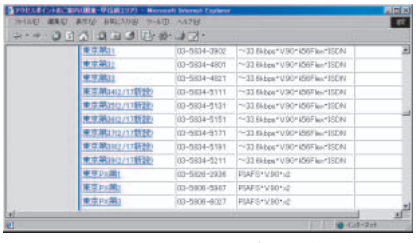
夜中にもつなぎたい人は、プロバイダーのホームページをまめにチェックして、アクセスポイントが新設されたら、すかさずダイアルアップ先の電話番号を変更しよう。ODNとNEWEBなど人気の固定料金制プロバイダーは、積極的にアクセスポイントの増加を行っている。新しいアクセスポイントほど混雑が少ない傾向がある。

複数の固定料金制プロバイダーに目を配っておくのもいい。今入会しているプロバイダーが混んできたなと思ったら、別の固定料金制のプロバイダーに乗り換えることも検討しよう。この意味で現在のおすすめは、AT&T WorldNet Serviceだ。編集部の調査の結果では、話中度が少なくコンテンツへのアクセスも快適だ。ただしアクセスポイントは全国15か所と少ない。また、注目したいのは23時から2時だけを従量課金制にしているぷららだ。「従量課金→利用を控える」というユーザー心理を利用して、アクセスの集中を避けつつ安価にサービスを提供する戦略をとっているものと思われる。

ODNの23時台の話中度調査

（3月2日～8日、編集部による）
アクセスポイントによってこれだけの違いが！

札幌1	7	札幌12	0
仙台1	7	仙台6	0
東京1	5	東京39	0
千葉1	6	千葉9	0
横浜1	7	横浜10	0
名古屋1	6	名古屋11	0
大阪1	7	大阪14	5
神戸1	7	神戸7	0
広島1	4	広島5	0
福岡1	7	福岡9	0



ODNは東京だけでこんなにアクセスポイントがある。

固定料金制のプロバイダー ［抽出条件］アンケートの上位50社の中で1月あたりの料金2,200円以下

人気順位	プロバイダー名	初期費用	料金規定	1か月あたりの料金	つながりやすさ	コンテンツ快適度
1	ODNダイヤルアップ	0円	月額1,950円	1,950円	A	B
9	NEWEB	0円	月額1,850円	1,850円	A	B
7	ぷらら ※1	0円	月額1,800円	1,800円	C	A
11	Panasonic Hi-HO ※2	0円	月額2,000円	2,000円	-	-
12	TikiTikiインターネット	5,000円	年額12,000円 ※3	1,000円	A	B
			月額1,200円	1,200円	-	-
15	AT&T WorldNet Service	3,000円	月額2,000円	2,000円	A	A
18	アルファインターネット	0円	月額980円	980円	C	B
			年額9,800円	817円	-	-
19	JustNet	2,000円	月額1,950円	1,950円	B	C
21	InfoSphere ※2	0円	月額1,750円	1,750円	-	B
22	Highway Internet	2,000円	月額2,000円	2,000円	A	B
			年額18,000円	1,500円	-	-
24	東京電話インターネット	0円	月額1,750円	1,750円	-	-
27	生協インターネット	4,000円	年額12,000円	1,200円	-	-
29	MTCI	0円	年額2,5000円	2,083円	-	-
31	Webしずおか	3,000円	月額2,000円	2,000円	-	-
			年額20,000円	1,667円	-	-
33	ALLESNET	3,000円	月額1,500円	1,500円	C	C
			年額15,000円	1,250円	-	-
35	BEKKOAME/INTERNET	0円	月額2,200円	2,200円	-	-
			年額24,000円	1,200円	-	-
35	TOKAIネットワーククラブ	3,000円	月額2,000円	2,000円	-	-
36	KCN-Net	5,000円	月額1,800円	1,800円	-	-
			半年10,000円	1,667円	-	-
40	3Web	2,000円	月額2,100円	2,100円	C	B
			年額24,000円	2,000円	-	-
41	BIWALOBE	0円	年額15,000円	1,250円	-	-
44	ドルフィンインターネット	10,000円	月額2,000円	2,000円	A	B
			年額20,000円	1,667円	-	-
		0円	月額1,850円	1,850円	-	-
45	Momoたろうインターネットクラブ	3,000円	月額1,500円	1,500円	-	-
			年額15,000円	1,250円	-	-
47	ネスク・インターネット	3,000円	月額1,500円	1,500円	-	-
			年額16,500円	1,375円	-	-
47	kyoto-Inet	2,000円	年額6,000円	500円	-	-
46	INTERLINK	3,000円	月額1,000円	1,000円	-	-
			年額11,000円	917円	-	-

※1 23～2時は月30時間以降3円/分の従量課金　※2 アクセスポイントは他の料金コースとは別　※3 初年度は9,800円
「つながりやすさ」と「コンテンツ快適度」については、221ページを参照。

■■■■は第一種通信事業者

タイムプラス：月額200円（ISDNでは350円）を支払うことで、市内通話料金が5分10円（深夜・早朝は7分10円）になるNTTの割引サービス。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

どれを選ぶかでもっとも悩む

家電メーカー型の料金コースを徹底研究

昨年、@nifty、So-net、BIGLOBEの3社を中心に、家電メーカー系のプロバイダーは次々と値下げや利用時間延長を行ったため、違いが見えにくくなってきた。インターネットを始める人には、こうした知名度のあるプロバイダーは取っ付きやすいが、どれを選べばいいかがわからない。ヘビーユーザーには品質や料金の点で物足りない。そんなプロバイダーでもそれなりの使いこなし方がある。

多様なコースとコンテンツ

家電メーカー系のプロバイダーの多くは、月額の基本料金＋従量課金制の料金体系を採用している。一定の接続時間を超過すれば、残りは分単位で課金されるというものだ。携帯電話の「最大何分までの無料通話を含む」という料金プランと同じだ。

このような料金体系を採用するプロバイダーの多くは、基本料金内で接続できる時間が異なる複数のコースを用意している。これは、初心者からヘビーユーザーまであらゆるレベルのユーザーを取り込むための戦略だ。単純な安さを強調するよりも、コミュニケーションソフトやショッピングなど、多彩なコンテンツサービスで魅力を出そうとする傾向がある。ユーザーホームページも、固定料金制のプロバイダーより充実しており、追加料金なしで利用できる場合が多い。

自分の利用時間がわからない人は

基本料金＋従量課金制の料金体系を有効に活用するには、基本料金分の時間を超えない範囲でなるべく使い切ることがベストだ。そのためには、まず自分のインターネット接続時間が1か月どのくらいかを知っておく必要がある。そのうえで各社の料金表を検討すれば、どのプロバイダーのどのコースが最もリーズナブルなのかが判断できる。

しかし、これからインターネットを始める人はどうすればいいのだろうか。何時間利用するかなど見当もつかないだろう。そのようなときは、基本料金が30時間で2,000円程度のコースから始めてみることをおすすめする。インターネットユーザーで最も多いのは、利用時間が月に10～30時間程度の人だ。

プロバイダーの決め方も、あまり悩まないで購入したパソコンから簡単に入れるところなどを選ぶといいだろう。プロバイダーのブランドイメージで選んでもかまわない。224ページか

基本料金＋従量課金制のプロバイダーで時間ごとの最低料金（太字は基本料金ちょうど）［抽出条件］アンケートの上位50社

人気順位	プロバイダー名	初期費用	従量料金	0時間	1時間	3時間	4時間	5時間	7時間	7.5時間	8時間
2	@nifty	1,000円	1分10円	950円	950円	950円	950円	**950円**	2,000円	2,000円	2,000円
3	OCNダイヤルアクセス	0円	1分3～10円	980円	980円	980円	**980円**	1,580円	1,750円	1,750円	1,750円
4	So-net	2,000円	3分10円	500円	**500円**	1,000円	1,000円	**1,000円**	1,400円	1,500円	1,600円
5	BIGLOBE	0円	1分10円	**200円**	800円	1,000円	1,000円	**1,000円**	2,000円	2,000円	2,000円
6	DION（コミコミコース）※1	0円	1分10円	1,750円	1,750円	1,750円	**1,750円**	2,350円	2,850円	2,850円	2,850円
6	DION（バリバリコース）	0円	1分10円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円
8	DTI（Myプラン）	2,000円	3分10円	980円	980円	**980円**	1,180円	1,380円	1,780円	1,880円	1,980円
10	DreamNet	0円	1分7円	**0円**	420円	480円	480円	**480円**	980円	980円	980円
11	Panasonic Hi-HO	0円	1分7円	500円	500円	**500円**	920円	1,340円	1,600円	1,600円	1,600円
14	MSN	0円	1分約5.3～8.3円	1,486円	1,486円	1,486円	**1,486円**	1,985円	2,070円	2,070円	2,070円
16	AOL	0円	1分8円	980円	980円	**980円**	1,460円	1,900円	1,900円	1,900円	1,900円
21	InfoSphere Lite	0円	1分5円	700円	700円	**700円**	1,000円	1,300円	1,500円	1,500円	1,500円
19	JustNet	2,000円	1分6円	500円	360円	**950円**	1,310円	1,670円	2,390円	2,570円	2,750円
20	ASAHIネット	2,000円	1分7円	450円	450円	**450円**	870円	**900円**	1,740円	1,700円	1,700円
23	SANNETインターネットサービス	3,000円	1分3～7円	**300円**	770円	800円	800円	**800円**	1,500円	1,500円	1,500円
24	東京電話インターネット	0円	1分5円	750円	750円	750円	750円	**750円**	1,350円	1,500円	1,650円
26	interQ MEMBERS	3,000円	1分9～10円	**0円**	600円	950円	**950円**	1,490円	2,000円	2,000円	2,000円
29	KCOM	3,000円	1分5～8円	500円	500円	**500円**	980円	1,000円	**1,000円**	1,240円	1,480円
32	リムネット	0円	3分10円	1,800円	1,800円	1,800円	1,800円	1,800円	1,800円	**1,800円**	1,900円
36	TOKAIネットワーククラブ	3,000円	1分3円	980円	980円	980円	980円	980円	980円	980円	**980円**
38	GOL	2,000円	1分4円	500円	500円	500円	500円	**500円**	1,340円	1,550円	1,760円
42	PEOPLE	0円	1分5～10円	**0円**	500円	**500円**	800円	1,100円	1,700円	1,850円	2,000円
49	U-netSURF	3,000円	1分7円	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円	2,000円

※1　通話料金を含む　　■は、家電メーカーもしくはソフトウェアメーカーが運営するプロバイダー

コミュニケーションソフト：チャットソフトやインスタントメッセージソフトのように、インターネット上でリアルタイムにメッセージの交換ができるソフトウェア。ポストペットのように趣向を凝らした電子メールソフトも含まれる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

ら紹介するプロバイダーの独自サービスで自分が使いたいものがあれば、それで選んでもいい。

3か月あるいは6か月とインターネットを利用した時点で、自分の接続時間とプロバイダーの料金の関係を見直してみるといい。そのうえで、今のコースが自分に合っていないなら、同じプロバイダーでコースだけ変更するといい。コースの変更がプロバイダーのホームページから無料で行えるのが基本料金＋従量課金制の利点だ。たとえば、来月は就職活動で接続時間が増えそうだという場合は、次の月だけ長時間コースに変更しておき、通常の生活に戻った時点で再度元のコースに戻すなど、ライフスタイルに合わせた活用ができる。

従量課金の部分に注意

このタイプのプロバイダーの基本料金とその接続時間の設定は、似通っているようにも見えるが、各社が特徴を出すべく微妙に異なっている。さらに、従量課金の部分もプロバイダーによりさまざまだ。たとえば、So-netの場合、3分10円（わくわくコース）であるのに対し、@niftyの場合、1分10円（5時間コース）と3倍の格差がある。基本料金内での利用に関しては金額に大きな開きはなくても、時間を超過した瞬間からプロバイダーによっては差がぐんぐん広がる場合もあることを認識しておきたい。2時間超過すると@niftyでは1,200円になってしまい、コースの変更を検討したほうがよくなるが、So-netでは400円しかかからない。予定した接続時間ぴったりに使うのは難しいという人は、従量課金の金額もチェックしよう。

ほかのタイプのプロバイダーと比べると

編集部で調査した話中度やスピードを見ると、基本料金＋従量課金制のプロバイダーの接続品質は、特によくもなければ悪くもない「まあまあ」のところが多い。料金は、利用時間を月30時間程度に抑えるなら、低額の固定料金制のプロバイダーと比べても損はしない。ただしインターネットに毎日1時間以上はどっぷりつかりたい人や、接続の品質が気になる人は、プロバイダーの乗り換えを検討してもいいだろう。試しに入会するなら、1か月500円程度の料金コースや完全従量制（基本料金0円）コースのあるプロバイダーが便利だ。プロバイダーを乗り換えても、前のプロバイダーは安い料金コースに変更して、メールとホームページをそのまま使い続けるという手が使える。

表の見方
「つながりやすさ」は、213ページの話中度調査を元にして話し中の回数の合計をA、B、Cに分けたもの。
A：5以下　B：6～15　C：16以上

「コンテンツ快適度」は、215ページのコンテンツ快適度調査を元にして秒数の平均値をA、B、Cに分けたもの。
A：340以下　B：341～380　C：381以上

「つながりやすさ」と「コンテンツ快適度」の「-」は未調査のプロバイダー。

10時間	15時間	20時間	25時間	30時間	37.5時間	40時間	50時間	100時間	150時間	無制限	つながりやすさ	コンテンツ快適度
2,000円	2,000円	2,000円	2,000円	**2,000円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	**5,000円**	B	B
1,750円	**1,750円**	2,300円	2,300円	2,300円	2,300円	**2,300円**	2,800円	**2,800円**	11,800円	-	B	B
2,000円	2,000円	**2,000円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	**5,000円**	B	B
2,000円	2,000円	2,000円	2,000円	**2,000円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	-	A	B
2,850円	5,700円	**5,700円**	8,700円	11,700円	16,200円	17,700円	23,700円	53,700円	83,700円	-	A	B
3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	-	-	-
2,380円	3,380円	4,380円	5,380円	6,380円	7,880円	8,380円	10,380円	20,380円	30,380円	**3,500円**	A	B
980円	1,980円	1,980円	1,980円	**1,980円**	3,480円	3,980円	5,980円	15,980円	25,980円	**2,900円**	A	B
1,600円	1,600円	1,600円	**1,600円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	**2,000円**	A	B
2,070円	**2,070円**	4,010円	4,010円	4,010円	4,010円	4,010円	**4,010円**	22,860円	41,710円	-	A	B
1,900円	**1,900円**	2,980円	2,980円	2,980円	2,980円	2,980円	2,980円	2,980円	**2,980円**	**4,800円**	A	-
1,500円	**1,500円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	18.000円	**1,750円**	A	-
3,470円	5,270円	7,070円	8,870円	10,670円	13,370円	14,270円	17,870円	35,870円	53,870円	**1,950円**	B	C
1,700円	**1,700円**	2,000円	2,000円	2,000円	**2,000円**	2,450円	2,900円	2,900円	**2,900円**	-	A	A
1,500円	1,500円	1,500円	**1,500円**	1,900円	1,900円	1,900円	1,900円	1,900円	**1,900円**	**3,800円**	B	B
2,250円	3,750円	5,250円	6,750円	8,250円	10,500円	11,250円	14,250円	29,250円	44,250円	**1,750円**	-	-
2,000円	**2,000円**	4,700円	7,400円	10,100円	14,150円	15,500円	20,900円	47,900円	74,900円	**3,800円**	A	B
1,900円	**1,900円**	3,400円	4,900円	6,400円	8,650円	9,400円	12,400円	27,400円	42,400円	**3,000円**	A	C
2,000円	**2,000円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	-	A	B
1,340円	1,500円	**1,500円**	2,400円	3,300円	4,650円	5,100円	6,900円	15,900円	24,900円	**2,000円**	-	-
1,800円	1,800円	**1,800円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	-	-	-
2,600円	4,100円	5,600円	7,100円	8,600円	10,850円	11,600円	14,600円	29,600円	44,600円	**2,500円**	-	-
2,000円	2,000円	**2,000円**	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	3,000円	**3,000円**	-	A	B

完全従量制：月額の基本料金が無料で、利用した時間だけに課金される料金体系。いくつかのプロバイダーは、モバイルユーザーのために完全従量制のコースを用意している。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

ヘビーユーザーの支持はどこから来るか

キャップ制２社の「満足度」の秘訣を探る

ここ１、２年くらいの間にインターネットを始めた人にとっては、「プロバイダー」と言えば電話会社や家電メーカーが運営しているところをイメージしやすいかもしれない。しかし、もともとインターネット接続を提供するプロバイダーという仕事を始めたのは、技術を売りにしたベンチャー企業だ。派手さはないが、品質が高く、ユーザーの信頼も厚い。そんなプロバイダーの特徴を見てみよう。

IIJ4UとDTIとはどんなプロバイダーか

本誌を始めとするインターネット雑誌が行うプロバイダーの人気ランキングで、毎回「満足度」の上位に位置するプロバイダーがIIJ4UとDTIだ。208ページの結果でもIIJ4Uが76.1%、DTIが89.1%となっている。この2社の何がそれほどまでの満足感をユーザーに与えているのだろうか。

IIJ4Uは、日本で最初に設立されたインターネット接続プロバイダーIIJが提供する個人向けの接続サービスだ。老舗だけに、その回線品質や技術力の高さは誰もが認めるところ。ベテランのインターネットユーザーであれば、IIJが行う個人向けサービスと聞いただけで、快適なインターネットが約束されているのだろうと想像する。96年のサービス開始からこれまで、品質にはうるさいベテランユーザーを中心に会員を獲得してきたことがその証拠だ。

一方の好感度の高いプロバイダーであるDTIはどうだろう。このプロバイダーの満足度を押し上げている原因は、徹底した「No Busy」戦略にあると言える。一時は雑誌広告に各アクセスポイントのビジー率グラフや１回線あたりの会員数を掲載して、つながりやすさと徹底した情報開示の姿勢をアピールしていた。また、つながりやすさを約束するために各アクセスポイントが定員に達したら、設備の増強が完了するまで入会を規制する徹底したポリシーに共感してこのプロバイダーを選ぶ人も多いようだ。

この２社のほかに、最近ではXAXON INTERNETが注目される。ホームページで「可能な限りの全ての経営資源を『つながりやすさ』と『速さ』に集中投資」と自社のポリシーを明確にうたっている。

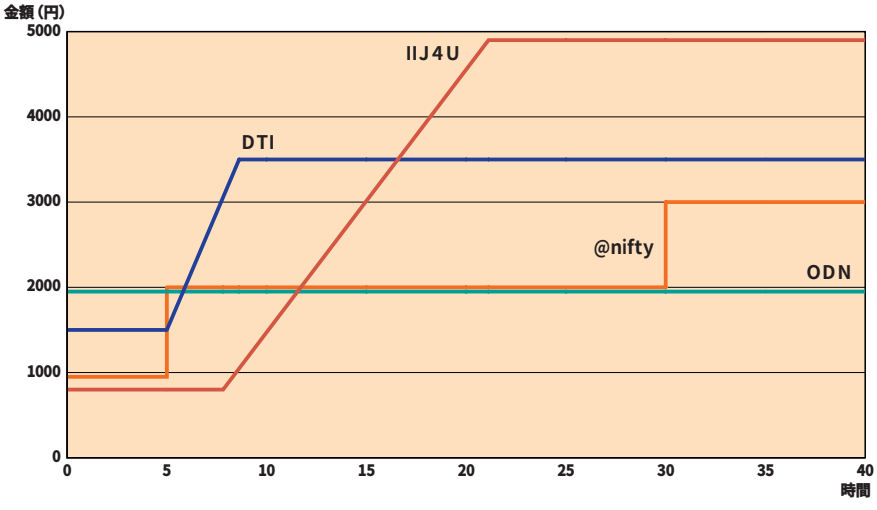
「キャップ制」はだれにとってオトクか

下のグラフのようにIIJ4UとDTIはともに、一定時間の接続料金を含む基本料金に従量課金を組み合わせ、さらに基本料金＋従量課金に上限を設けた「キャップ制」という料金体系を取っている。

IIJ4UやDTIを月額固定制や家電メーカー系のプロバイダーと料金の面だけで比較すると、月に20～30時間程度の利用では明らかに割高だ。5～8時間程度しか利用しないユーザーなら、IIJ4Uの快適さが800円で手に入るのだから非常にお得と言えるだろう。逆に長時間接続のヘビーユーザーなら、3,500円や4,900円で高い品質のインターネット接続が保証されているわけだから、DTIやIIJ4Uは賢い選択と言えるのではないだろうか。DTIでは従量課金が1分10円と高額なため、料金がすぐに上限に達してしまう。長時間接続の場合は、キャップ制は高額な分だけ高品質な固定料金制と考えたほうがいいだろう。IIJ4Uはライトユーザーとヘビーユーザーにとって、DTIはヘビーユーザーにとってお得感の強いプロバイダーだと言える。

なお、ベンチャー型のプロバイダーではないが、NEWEBの「ダイヤル2」ではIIJ4UとDTIのようなキャップ制を採用している。

キャップ制と他の料金体系の比較



キャップ制のプロバイダー

人気順位	プロバイダー名	初期費用	基本料金	基本料金で接続できる時間	従量課金	基本料金＋従量課金の上限	つながりやすさ	コンテンツ快適度
8	DTI	2,000円	1,500円	5時間	1分10円	3,500円	A	B
9	NEWEB	500円	800円	5時間	1分5円	3,000円	A	B
17	IIJ4U	1,900円	800円	8時間	1分5円	4,900円	A	B

「つながりやすさ」と「コンテンツ快適度」については、221ページを参照。

ビジー：電話が話し中のこと。アクセスポイントにダイアルアップ接続しようとするとき、接続中のユーザー数がプロバイダーの用意した上限になっていると、ビジーになりつながらなくなる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

ズバリ推薦！ こんな人はまよわずデイタイムコースへ

これまで説明してきた各プロバイダーの性格と料金体系を照らし合わせる選び方のほかにも、ぜひここで注目しておきたいのが、性格のタイプにかかわらず、いくつものプロバイダーで用意されている「デイタイムコース」だ。では、これはどんなサービスなのか、そしてまた、どんな人に向いているのだろうか。

デイタイムコースのあるおもなプロバイダーの一覧

	プロバイダー名	コース名	入会金	月額料金	固定時間帯	時間外従量課金
時間限定型	DTI	Liteプラン	2,000円	年額12,000円（月額1,000円）	6:00～21:00	×
	Momoたろう インターネットクラブ	ハロー	3,000円	年額5,000円（月額約417円）	8:00～18:00	×
	ODN	バリュープラン	なし	1,300円	5:00～20:00	×
夜間従量型	3Web	3Web Light Monthly	2,000円	1,600円	7:00～22:00	20円／3分
	DreamNet	デイマックス	なし	980円	8:00～20:00	10円/分
	JustNet	トワイライトフリー	2,000円	1,280円	18:00～24:00	6円／分
		デイタイムフリー	2,000円	1,280円	6:00～18:00	6円／分
		学割コース	なし	950円（時間外3時間分を含む）	6:00～20:00	6円／分
	KCOM	タイプD	3,000円	1,600円	5:00～22:00	8円／分
	NEWEB	ダイヤルくじら	500円	1,200円	9:00～21:00	5円／分※1
	So-net	デイタイムコース	1,000円※2	2,000円（時間外5時間分を含む）	6:00～20:00	10円／3分
	ネスク・インターネット	ビジネス・デイタイム※3	5,000円	年額4,950円（月額約413円）	5:00～22:00	10円／3分
	ぷらら	インターネットセット	なし	1,800円（時間外30時間分を含む）	2:00～23:00	3円／分

このリストはアンケートの上位50社の中からすべてのデイタイムコースを抽出したもの。
※1ただし、従量分は基本料金と合わせて3,000円まで（1,800円分）が上限。　※2オンラインサインアップの場合は無料。　※3東京、大阪、名古屋、京都限定のサービス。

昼間の利用がメインなら迷わずこれを選ぶ

デイタイムコースとはその名のとおり、おもに昼間向きのサービスだ。現在の日本でインターネットがもっとも混雑するテレホーダイ時間には接続を制限するが、それ以外の時間帯なら通常よりも割安な月額固定料金でインターネットに接続できるというものだ。使える時間帯は多くの場合、朝5～6時から夜8～10時までの間である。

ただし、厳密にはこのなかにも2タイプある。1つは対象時間外にはまったく接続できないというまさに「時間限定型」のサービスだ。もう1つは、対象時間外でも一応インターネットにつなげるが、その場合には月額料金以外に別途1分につき5円～10円程度の従量課金が追加される「夜間従量型」とでもいうべきサービスだ。

つまり、デイタイムコースはSOHOや学生、主婦など、おもに昼間の利用が多く深夜はほとんど使わないうえ、料金の安さも重視したいという人にとっては、ピッタリのサービスなのだ。こうした人は、各プロバイダーの性格で選ぶよりも、この「時間限定型」のコースがあるかどうかを考えたほうが、より自分の目的に合ったプロバイダー選びができるのではないだろうか。

夜間従量型の例
7:00～22:00はいくら接続しても月額1,000円だが、22:00～7:00は分／10円が別途かかる。

時間限定型の例
7:00～22:00はいくら接続しても月額1,000円だが、22:00～7:00は利用できない。

最後の絞り込みには「プロバイダーガイド」が便利！

Jump provider.impress.co.jp
プロバイダー関連のニュースもひんぱんに更新されているので、料金の値下がりやキャンペーン情報などもバッチリだ。

市内通話料金で使える プロバイダーがひと目でわかる

自分の選んだタイプのなかからプロバイダーを絞り込むときや、ここで紹介したプロバイダー以外のサービス内容についても知りたいというときには、インプレスの「プロバイダーガイド」が便利だ。ここでは、市外局番ごとにそこにアクセスポイントがあるプロバイダーが網羅されているので、自宅から市内通話料金で使えるのはどこかが一目瞭然だ。もちろん、アクセスポイントはアナログ、ISDNごとにわかるようになっている。また、五十音順でも検索できるので、特定プロバイダーのサービス内容を調べるといった場合にも、各社のウェブにいちいちジャンプするよりも格段に探しやすい。加えて年数回、全プロバイダーの人気投票を行っているので、いま人気のプロバイダーもひと目でわかるのだ。

しかも、この夏からは住所や希望料金、自分のニーズなどを入れていくだけで自動的に最適なプロバイダーを選出してくれる「エキスパートシステム」も導入される予定なので、もっと直感的にプロバイダー選びができるようになる。そうなったら、もう雑誌のプロバイダー特集はいらなくなってしまうのかもしれない？

エキスパートシステム：特定分野の専門家が持っているような高度な知識をコンピュータで代行し、与えられた条件に対して回答したり、助言をしたり、推論を行ったりする人工知能システムのこと。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

あなたの「イチバン」は何？

使いたいサービスで選ぶ百花繚乱の個性派プロバイダー

自分の「One & Only」がはっきりわかる

ニーズに合ったサービスが生み出す快適インターネット生活のススメ

料金、接続速度、アクセスポイントの数……プロバイダーを決める要素はたくさんある。とかく優先されがちなのが料金だが、それだけがプロバイダーのすべてではない。自分はインターネットで何をやりたいのか、まずはそれをハッキリさせてみてはどうだろうか。そうして見つけた「自分に合ったサービス」は、何物にも代えられない価値を持つ。ここでは、そんな個性派プロバイダーを一挙に紹介しよう。

成功の秘訣は「一点買い」！ プロバイダー選びの新基準

新規加入のときも乗り換えのときも、利用するプロバイダー選びに悩むユーザーは多い。選択の際に誰もが注目する「利用料金」は価格破壊が進み、どんどん低額化している。また、アクセスポイントの数や話中度、接続速度なども短期間で変わってしまう傾向にある。これだけ動きが激しいと、自分に合ったプロバイダーを見つけるのにも一苦労だ。もちろん今までのように、料金などの基本的な要素を総合的に比較して、最適なプロバイダーを選ぶ方法もある。だが、それがプロバイダーを選ぶ基準のすべてではない。もっといろいろな選び方があってもよい時代になったのだ。

そこで料金やサービスといった基本的な要素に代わる、プロバイダー選びの新しい基準として提案したいのが、「サービス一点買い」だ。各プロバイダーが独自に提供するサービスも多彩になり、各社ごとに個性化がますます進んでいる。まさに百花繚乱ともいえるこれらの個性派サービスの中で、自分が本当に「使いたい!」と思えるサービスを提供しているプロバイダーを探してみよう。ほかのプロバイダーではできないこと、面倒だったり費用がかかったりすることが、ここだけではできてしまう……こんな「売り」を見つけられればしめたもの。思い切って加入してしまおう。これが「サービス一点買い」の基本的な考え方だ。自分が一番欲しかったサービスがあるのなら、各社ともほぼ横並びとなった基本料金の差などは、ほんのわずかなものにしか思えないはずだ。

自分の「一番」を探せ! 個性派サービスの見分け方

プロバイダーが提供している個性的なサービスは実に多い。大手のプロバイダーには、1社でいくつものサービスやプランを提供しているところもある。現在のサービスは大きく分けて3つに分類できる。それぞれのサービスの概観とオススメしたいユーザー像は次のとおりだ。

●アクセス一点買い

メール専用のアクセスポイントがある、ダイヤルQ2を利用している、携帯電話で高速接続ができる、通話料の割引がある……など、接続方法と料金で特徴が出るサービス。モバイルユーザーなど、接続の仕方がほかの人と違うというユーザーにはオススメだ。

●コンテンツ一点買い

ほかにはない特徴的なコンテンツを提供しているサービスは、ここに分類した。会議室やチャットなどのコミュニケーションを楽しみたい人、会員だけに限定された便利なショッピング機能やチケット予約サービスなどを使いたい人などにオススメだ。

●ホームページ/メール一点買い

メールの送受信や、ホームページ作りに便利な機能があるサービスを分類した。「インターネットはメール中心」というユーザーやホームページを持ちたい人にオススメだ。

次ページからは、いま各社が提供するサービスのうち、特徴的なものを紹介した。あなたにとって一番のプロバイダーを選ぶときの参考にしてほしい。

ダイヤルQ2（ダイヤル・キュー・ツー）：NTTの電話回線を通じて行う、有料の情報提供サービス。利用者から情報を提供する各社に対する情報料の回収を、NTTが通話料と一括で行う。近年は音声、FAXといった、これまで中心的だった情報サービス以外にも、インターネット接続サービスに用いられることが多くなっている。

インターネットマガジン／株式会社インプレス/ZDBB
©1998-2000 Impress Corp.

アクセス一点買い！

横並び状態から抜け出した
特徴ある接続サービスはこれだ！

世界中どこからでも接続する！

AT&T WorldNet
Jump www.att.ne.jp
AT&T ビジネスインターネットサービス
Jump www.attbusiness.net/japan/
AOL
Jump www.jp.aol.com

出張が多いビジネスマンなどには、世界各地にアクセスポイントを持つこの3つがおすすめ。前2者は米国の大手電話会社、AT&T系列のプロバイダーだが、アクセスポイント数や料金体系が多少異なる。「WorldNet」は、世界150か国、1500都市にアクセスポイントがあり、海外での接続料は一律で1分20円。「ビジネスインターネットサービス」では500か所が集中する北米地域を中心に、計1300か所以上のアクセスポイントを持っている。

AOLも各国にアクセスポイントを持ち、アメリカやイギリスなど主要国は付加料金無しで利用できる。

	AT&T WorldNet	AT&Tビジネス インターネットサービス	AOL
アクセスポイント 国数	約150か国	約50か国	約130か国
アクセスポイント 拠点数	約1500都市	約1300か所	約250都市
付加料金	20円/1分間 米国内のフリーダイヤル番号へアクセスする場合は無料	（ベーシックプラン利用時） 200円/1時間（36秒ごと課金） （プレミアムプラン利用時） 100円/1時間（36秒ごと課金） 日本での会員はアジア・オセアニア地域では料金不要	米国、カナダ、オーストラリア、フランス、ドイツ、イギリス、香港、アイルランド、スウェーデン、スイスなど主要約10か国のアクセスポイント付加料金なし（その他の国での利用時は各国ごとに利用料金が異なる）

ひたすらメールを使う！

InfoSphere Lite
Jump www.sphere.ne.jp
246-net デイタイムコース
Jump www.246.ne.jp

「ホームページはあまり見ない。文章だけのメールをやりとりするのがほとんど」。そんな使い方の人にオススメなのは、この2つ。InfoSphere Liteでは、接続するときにメール送受信専用のIDでログインすると、その接続時間はカウントされない。最も安いAコースは月額700円。PIAFS専用のアクセスポイントでも接続時間はカウントされないので、モバイル環境ではメールのみという人にもうれしいサービスといえる。

246-netではメール送受信専用のアクセスポイントが用意されている。月額500円と基本料金の安い「デイタイムコース」は、通常のアクセスポイントでは夜間の接続が制限されるが、メール専用のアクセスポイントは24時間いつでも利用OK。メールをバリバリ使えるぞ。

	InfoSphere Lite Aコース	246-net デイタイムコース
月額基本料金	700円（3時間まで固定、以降1分5円）	500円固定（7:30～21:30のみ、接続可能）
メール無料送受信の方法	通常のアクセスポイントにメール専用のIDでログインする	メール専用アクセスポイントに接続する（最大5分間）

電話代もプロバイダー料金といっしょに！

DION コミコミコース
Jump www.dion.ne.jp
NEWEB ダイヤル1
Jump www.neweb.ne.jp

プロバイダーの利用料金は、劇的に値下がりした。月額固定料金のプロバイダーも、続々と低価格化しユーザーにとってはうれしい限り。とはいえ利用料金が安くなっても、アクセスポイントまでの電話代は今までとおり。このことを忘れて使っていると、電話代の請求を見て青くなるかも。ここで紹介する電話会社系の料金コースは、利用料金と電話代がセットになったもの。

DIONの「コミコミコース」は4時間から10時間までの電話代が月額基本料金に含まれている。

月額基本料金のかからないNEWEBの「ダイヤル1」は、全国どこから利用しても電話代込み1分12円で使えるぞ。

		初期費用	月額基本料金	従量制料金
DIONコミコミコース	ライト	0円	1750円（4時間まで）	10円/1分間
	レギュラー	0円	2850円（10時間まで）	10円/1分間
	ロング	0円	5700円（20時間まで）	10円/1分間
NEWEB	ダイヤル1	500円	0円	12円/1分間

セットで使って通話料も安くする！

東京電話インターネット
Jump www.dup.ttcn.ne.jp

入会するだけでアクセスポイントまでの通話料金も割引になるのが、「東京電話インターネット」だ。運営しているのは低額の市内通話料金で有名なTTNet。通話サービス「東京電話」とセットでプロバイダーに加入すると、通常で昼間3分9円の通話料金が3分8円になる。23時～翌朝8時の深夜・早朝時間帯は3分45秒で8円。またアステルのPHS（PIAFS32Kbps）からの通信料金が1分6円になる「@6（アットシックス）」サービスもある。モバイル兼用の人も注目だ。

4月からは、リムネットでも東京電話専用のアクセスポイントが開設され、同様の割引サービスを受けられる。ただしNTTのテレホーダイやタイムプラスなどの割引サービスは併用できないので要注意。

PIAFS（ピアフ／PHS Internet Access Forum Standard）：PHSでデジタル通信を行うための規格。
PIAFS1.0では32K通信、PIAFS2.0では64K通信、PIAFS2.1では64Kと32Kを動的に切り替える通信方法が定められている。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1998-2000 Impress R&D

カードなしでもインターネットを使う!

（コンビニ支払い）
ODN
Jump www.odn.ne.jp
NEWEB
Jump www.neweb.ne.jp

（ダイヤルQ2を利用）
interQ ORIGINAL
Jump www.interq.or.jp
ワイワイワイネット
Jump www.yyy.or.jp
ZZZ インターネットクラブ
Jump www.zzz.or.jp

毎月払うプロバイダーの利用料金。そのほとんどはカード決済を原則としている。とはいえ、学生などカードを持っていない人でもインターネットライフを満喫できる。電話会社系を中心に「カード以外の決済手段」を用意したプロバイダーがあるからだ。右の表のように銀行振込や口座振替のほか、ODNとNEWEBのようにコンビニで振り込みができるプロバイダーもある。OCNダイヤルアクセスはNTTの窓口での支払いが可能だ。

カードなしでもOKといえば、「ダイヤルQ2」を利用した接続方法もある。もはや老舗ともいえるinterQの登場以来、同様の接続サービスを提供するプロバイダーが増えてきた。このサービスの利点は面倒な入会手続きをしなくても済むこと。通常の電話代（通話料）以外に必要なのは3分間あたり10円（interQは20円）のダイヤルQ2情報料だ。通話料も情報料もNTTが請求してくれるから、クレジットカードの準備やオンラインサインアップの手間も不要。ちょっとウェブを見てみたい初心者や、メインプロバイダーが一時的に使えない人などには、手続きなしで気軽に使えるのが利点だ。

■口座振替、銀行振り込みで支払いできるプロバイダー（かっこ内は手数料）

プロバイダー名	口座振替	銀行振込
ODN	○	○
@nifty	○（300）	-
OCN	○	○
BIGLOBE	○（200）	-
ぷらら	○	-
NEWEB	○	○
JustNet	○	-
Highway Internet	○	-
interQ MEMBERS	○	○
KCOM	○	-
MTCI	○	-
ALLESNET	○	○
リムネット	○（500）	-
BEKKOAME	○	○
3Web	○	○
GOL	○	-
Momoたろう インターネットクラブ	○	-
INTERLINK	○	○

とにかく安いところを選ぶ!

kyoto-Inet
Jump web.kyoto-inet.or.jp
アルファインターネット
Jump www.alpha-net.ne.jp
246-net
Jump www.246.ne.jp

プロバイダーとの契約では、月額料金制を選んでも6か月や1年など、最低契約期間が決まっているところがある。規約などをよく読むと、長期一括払いで安く使えるプロバイダーも数多い。その中でも激安なのは、kyoto-Inetが年額6000円（1か月あたり500円）。アルファインターネットも時間無制限で接続できる月額980円のサービスが、年間一括払いでは9800円（1か月あたり816円）になる。

時間限定サービスとしては、246-netが7時半から21時半までのデイタイムコースが年額5000円（1か月あたり416円）だ。

「プロバイダーには一切お金を使いたくない!」という人には、究極の方法として無料プロバイダーを使うという手もある。無料プロバイダーについては236ページでも紹介しているので、こちらもチェックしてほしい。

PacketOne64で携帯をPHS並みの速度に!

NEWEB
Jump www.neweb.ne.jp
DION
Jump www.dion.ne.jp
@nifty
Jump www.nifty.com

高速なモバイル環境といえば、これまではPHSから64Kbpsで通信というのが常識だった。だが、携帯電話も速度面での巻き返しを図っている。cdmaOne対応携帯電話でPHS並みの下り64Kbps（上りは14.4Kbps）の通信速度を実現したのが「PacketOne64」だ。まだ登場したばかりのサービスということもあって、大手プロバイダーの中でPacketOne64に対応しているのは、3月10日現在で上記の3社。いますぐ携帯電話で高速にインターネットへ接続したい場合はこれだ。

ドコモの携帯でも高速通信!

Panasonic Hi-HO
Jump home.hi-ho.ne.jp
So-net
Jump www.so-net.ne.jp
BIGLOBE
Jump www.biglobe.ne.jp
@nifty
Jump www.nifty.com

圧倒的なシェアを誇るNTTドコモの携帯電話。だが、モバイルユーザーにとっては9600bpsでの接続しかできない「低速回線」でもあった。速度面での問題を解決してくれるのが、大手プロバイダーを中心に提供されている「データ系直収サービス Jump01」。従来はドコモの基地局から一般電話回線網を経由してデータをやりとりしていたものを、基地局とアクセスポイントを専用回線で接続した。従来比で約3倍のデータ転送を可能にしている。

Jump01 www.nttdocomo.co.jp/corp-user/datakei/mass.html

cdmaOne（シーディーエムエーワン）：複数のユーザーが同じ周波数帯域を共有するCDMA（符号多元分割接続）方式に準拠した、デジタル携帯電話サービス。従来の方式よりも通話時の音質に優れ、通信速度も大幅に向上した。国内ではセルラーグループおよびIDOがサービスを提供している。

インターネットマガジン／株式会社インプレス R&D
© 1994-2000 Impress R&D

コンテンツ一点買い!

「インターネット接続の目的はコレ!」
イチオシのコンテンツはココにある!

とにかくたくさんのコンテンツを楽しむ!

@nifty
Jump www.nifty.com
AOL
Jump www.jp.aol.com

インターネットの楽しみ方は千差万別。他の人との交流を楽しみたい人もいれば、ひたすら情報を集める人もいる。コミュニケーション重視派には、電子会議室がオススメ。代表的なのが@niftyのフォーラム。パソコン通信時代から脈々と続いてきた情報の蓄積量、参加している人数の多さは圧巻だ。「都市計画」から「アニメ」まで、テーマごとに分類されたフォーラムの中に、あなたの興味を引くものが必ずあるはず。

AOLもまた、コンテンツに力を入れたプロバイダーとしてインターネットの世界では早くから名が知られていた。AOL会員になれば、日本だけでなく世界中にあるAOLの豊富なコンテンツを楽しむことができる。ニュースにライブにペンパル探し、オンライン辞典など、質、量ともに申し分なし。ただし、AOLのコンテンツは通常のWWWブラウザーからでは見られない。メールの読み書きからダイアルアップ接続に至るまで、すべて専用のソフトが必要となる。

@niftyのフォーラムはウェブ上からでもアクセスできる。データライブラリや会議室の質は抜群。

専用ソフトで楽しめるAOLのコンテンツは国内外を問わずとにかく豊富。このためだけにでも入る価値は十分あるぞ。

買い物も接続料と一括決済!

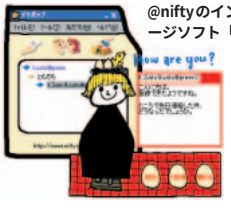
So-net smash
Jump www.so-net.ne.jp/shopping/
@nifty iREGi
Jump iregi.com
ぷらら SMAP
Jump www.plala.or.jp/plala/service/smap/

通常のオンラインショッピングサイトは、相変わらずクレジットカード決済が主流だ。とはいえカード番号を毎回入力するのは面倒だし、番号が漏れて悪用される心配はないだろうかと、セキュリティー面でいつも不安がつきまとう。

そこでより便利に、安心してショッピングが楽しめるように考案されたのが、これらの電子決済システム。各プロバイダーの会員ならば、IDとパスワードを入力するだけで、プロバイダー利用料金を払うのと同じカードで決済してもらえる。もちろん引き落としもプロバイダー料金と一括だ。ポイントサービスや補償制度もあるiREGi、代金引き換えやコンビニ決済と違って手数料がゼロのsmashなど、特典も充実しているぞ。

チャットやメッセージソフトで友達を探す!

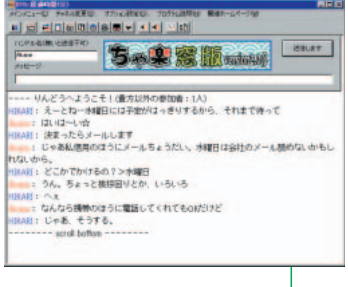
So-net コミュニケーションチャンネル
(Club House&ちゃ楽大名)
Jump www.so-net.ne.jp/communication/
ぷらら Pe-Cha♪
Jump www.plala.or.jp/plala/chat/
@nifty デリポップ
Jump www.nifty.com/delipop/



カードのデザインを選べる、@niftyのインスタントメッセージソフト「デリポップ」。

ウェブサイトは、見るだけのものではなく参加するものに変化しつつある。参加の仕方で代表的なのは会議室や掲示板だ。そこから一歩進んで、友達同士で利用するのがチャットやインスタントメッセージソフト。リアルタイムにメッセージが交換できるので、掲示板よりはるかに盛り上がる。大部屋で多人数と話したり、小部屋で2人で話し合ったりと使い分けができる「ちゃ楽大名」や、3D空間を動き回って話し相手を見つけられる「Pe-cha♪」のようなものもある。

@niftyの「デリポップ」のように、独自のインスタントメッセージソフトで、ユーザー同士のコミュニケーションを促進しているプロバイダーもある。5月からの本格スタートに向けて、現在は会員に対してベータ版が配布されているぞ。


So-netオリジナルのチャットソフト「ちゃ楽大名」。

いろいろなキャラクターが楽しいぷららの3Dチャット「Pe-Cha♪」。

インスタントメッセージソフト：同じソフトを使っている特定グループの仲間がオンラインであるかどうかを調べ、オンラインであればチャットやファイル転送などができるアプリケーション。グループ外のユーザーとの交信もできる。AOLのICQやMSNのメッセンジャーサービスなどがその代表例。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

1つのソフトでなんでもできる！

DTI DreamStart
kJump d-system.dti.ad.jp/DreamStart/

DTIが提案する、まったく新しい形のサービス「DreamStart」。これは、インターネットを便利に活用できる統合環境をユーザーに提供するものだ。利用のためには専用ソフト（現在ウィンドウズ版のみ）が必要になる。このソフトには、インターネットを使うためのあらゆる機能が満載されている。ダイアルアップ接続、メールの読み書き、WWWブラウザーといった基本的なものから、ホームページのメンテナンスツール、Javaアプレットを用いたチャットまである。ゲームからビジネス情報など専用のコンテンツも用意された統合環境で、インターネットをスマートに使いこなせるのだ。

DreamStartのメイン画面。ネットニュースやFTPにも、わざわざソフトを準備する必要はない。

列車の座席をネットで予約！

CYBER STATION
kJump www.cyberstation.ne.jp

鉄道情報システム株式会社が運営する「CYBER STATION」は、JR関係の情報が非常に充実している。ダイヤ情報や経路検索など、JRを賢く使いたいユーザーには役立つコンテンツばかりだ。ほかのプロバイダーからアクセスしても見られる情報以外にも、会員限定の便利なサービスがある。新幹線と特急列車（寝台車なども含む）の指定席をネット上で予約できるというもの。予約時に表示される「指定情報メモ」をプリントアウトして駅に持参すれば、待たずに指定席券が買える。旅行や出張時にうれしいサービスだ。

便利な「ネット手帳」を使う！

So-net My Folder
kJump www.so-net.ne.jp/mf/

So-netが5月から始める「My Folder」は、ネット上に自分だけの情報を書き込んだ「手帳」を作れるサービスだ。書き込める情報は、スケジュール、アドレス、URLなど。ウェブメールも使えるようになる。ほかにも画像データを集めた「アルバム」が作成できたり、ウェブサイト上の情報をスクラップブック風に保存できたりと、機能は豊富。友達とグループを形成して情報を共有すれば、ネット上の情報基地として役立つことは間違いない。

「My Folder」の画面。月額300円のサービスとなる予定だが、3月から始まっているモニターサービス期間は無料だ。

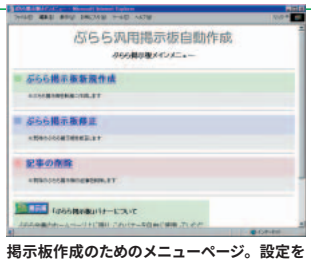
ホームページ/メール一点買い！

使いこなすのが達人への近道！
欲しい機能は迷わず手に入れよう！

ラクしてホームページを作る！

ぷらら
kJump www.plala.or.jp

アクセスカウンターや掲示板など、ホームページに彩りをもたらす各種のアイテムはCGIを利用して作られている。自分のホームページにも置きたいと考えている人も多い。だが、自分でCGIスクリプトを書くのが難しかったり、加入しているプロバイダーが利用を制限している場合もあったりする。最近ではプロバイダー側があらかじめ標準的なスクリプトを用意し、ユーザーはそこから使いたいものを選ぶというスタイルが多くなった。用意しているスクリプトの豊富なのがぷらら。14ものスクリプトが無料で使える。ホームページ作成もこれで一気にラクになるぞ。



掲示板作成のためのメニューページ。設定を入力していくだけであっという間に完成だ。

提供されているCGI

アクセス解析フォーム	G-LIGHT（ゲストブック）
DAY COUNTER	ぷらら掲示板CGI
MiniBBS	ゲストブックCGI（簡易掲示板）
Web Forum	アクセスカウンタCGI
LIGHT BOARD	メール送信CGI
WebVOTE（投票フォーム）	アクセス制限設定CGI
プチ☆ボード（掲示板）	アンケートCGI

ホームページはとにかく容量！

ASAHIネット
kJump www.asahi-net.or.jp
InterQ Members
kJump www.interq.or.jp

ホームページに画像や動画などを使う人は、与えられたディスク容量を使い込みがち。オプションサービスとして容量を追加する方法もあるが、それならば最初から容量を心配しなくてもいいプロバイダーを選ぶ方がカシコイはずだ。

ここで挙げた2社では、ちょっとやそっとでは使い切れない、50メガバイトもの巨大なホームページ容量がもらえる（一部のコースを除く）。

Javaアプレット：WWWブラウザーのコンテンツに埋め込まれ、実行時にはクライアントにダウンロードして動作する小さなアプリケーションプログラムのこと。「Java言語」で記述され、HTML言語に張り付けられる程度の小さなプログラムを指すものを「Javaアプレット」と呼ぶ。

インターネットマガジン／株式会社インプレス
©1996-2000 Impress Corp.

オリジナルドメインを取る！

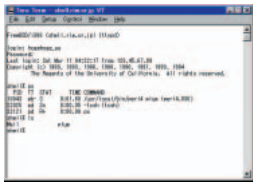
JustNet Myドメインパック
Jump www.justnet.ne.jp

ホームページを運営するユーザーにとって、.comや.netなどのオリジナルドメインは大きな魅力だ。個人でオリジナルドメインを取得するには専用のサービスを利用するのが一番。その中でもJustNetの「Myドメインパック」は、プロバイダーの利用料金込みで気軽に使える。会員であれば初期費用が10,000円、月額料金は3,200～3,900円。会員に代わってオリジナルドメインを取得してくれて、25Mバイトのホームページ容量が与えられるだけでなく、このドメイン名のメールアドレスも5つまで設定できるのだ。

UNIXシェルを使う！

リムネット
Jump www.rim.or.jp

インタラクティブなホームページ作りに欠かせないCGIやSSIをコマンドライン上で動作チェックできるなど、UNIXのシェルアカウントはあればとても便利だ。しかし、多くのプロバイダーではセキュリティー上の理由からこうした機能を一般ユーザーには開放していない。リムネットの登録ユーザーにはUNIXシェルが開放されており、CGIやSSIも自由に設置できるうえに、外部からでもTELNETによる接続ができる。



自由度の高いリムネットのシェルサービスは、上級者ご用達ともいえる。

迷惑メールを撃退！

@nifty スパムメールブロック機能
Jump www.nifty.com/support/mail/reject.htm
SANNET メール着信拒否サービス
Jump www.sannet.ne.jp/sannet/

まったく知らない人から迷惑な内容のメールが届いたり、大量のダイレクトメールが送られてきたりと、最近メールにまつわるトラブルの話をよく聞くようになった。こうしたスパムメールに悩まされている人におすすめなのが、特定の条件に合致するメールの着信を拒否できるサービスの数々。

@niftyやSANNETでは、メールアドレスやタイトル、メールのサイズなどを指定することで、こうした迷惑メールを一切受け取らない設定ができる。ウェブ上で設定ができるので、何度もスパムメールを送ってくる相手を登録しておこう。迷惑メールに困ったときも、これで撃退だ。

メールチェックはウェブ上で！

OCN Mail On
Jump www.ocn.ne.jp
AT&T WorldNet うぇぶdeよめーる
Jump www.att.ne.jp

WWWブラウザーで読み書きできるウェブメールは、gooフリーメールやHotmailなど、大半のサービスではで独自のメールアドレスが与えられる。

ここで挙げた2つのプロバイダーでは、会員が別のアドレスを登録しなくても、もともと与えられているアドレスとパスワードでウェブメールを送受信できるぞ。複数アドレスを使い分ける面倒がなくて便利だ。

「Mail On」のメイン画面。普通のウェブメールと違って、いつも使うOCNのメールアカウントを利用できる。

携帯・PHSでもメールチェック！

BIGLOBE
Jump www.biglobe.ne.jp

大手プロバイダーの中でも、メールに関する機能が豊富なのがBIGLOBEだ。メールが到着すると、ATermシリーズのTAやポケベル、アステルのPHSなどに通知してくれる「着信通知サービス」、iモードにメールを転送してBIGLOBEのメールアドレスで送信できる「メール・ミニ」、到着したメールのタイトルと送信者を、携帯やPHSに転送する「メール転送サービス・ミニ」などがある。

ユニークなのが「遊遊メール」。ATermを使っているBIGLOBE会員ならば、BIGLOBEに接続せずに短いメールを送信できるサービスだ（NTT料金が1通あたり0.4円かかる）。また自宅に電話がかかると、かかってきた相手の電話番号を携帯電話にメールで知らせるようにするようにもできるのだ。

音声やFAXをメールで受け取る！

NEWEB メール・イン・ワン
Jump www.neweb.ne.jp

月額300円（3Mバイトまで）で、FAXから送信されたデータや音声メッセージをメールの添付ファイルとして受け取れるのがNEWEBの「メール・イン・ワン」サービス。送信者が指定された電話番号にデータを送ると、FAXのデータはTIFF画像形式に、電話に吹き込んだ音声データはWaveにそれぞれ変換され、メールに添付されて受け取れるという仕組みだ。

付加料金（月額300円、NEWEBメールサービス利用者のみ）を払えば、着信した電子メールを自動音声で直接読み上げてもらって外出先や携帯電話などで聞くこともできる。

また電子メールをFAX端末に送信するタイプのサービスも用意されていて、NEWEB会員は国内ならば1枚18円、海外では例えばアメリカ本土だと1枚36円というように、かなり安い値段でFAXを送れるぞ。

ドメイン：ネットワーク上でのコンピュータのグループ。具体的には電子メールアドレスの@以降を指す。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

発想の転換で

もっと自由にプロバイダーを選ぶ！

ホームページ容量やコンテンツで選ぶのはもう古い！

目的ごとに「専門サービス」を使いこなすのが2000年流テク

これまでは、たとえばホームページ容量などが充実したサービスを受けたいと思うと、アクセスポイントや料金体系などをある程度犠牲にしてでも、そのサービスのあるプロバイダーを選ぶのが普通だった。しかし、今年はちょっと考え方を変えて、そうした特定ニーズは専門のサービス業者に任せてみてはどうだろうか。そうすれば、もっと自由にプロバイダーを選べるようになるだけでなく、より質の高いサービスも使えるようになるのだ。

専門サービスの活用が選択の幅を拡大する

プロバイダー選びが多くのインターネットユーザーの頭を悩ませている原因の1つとして「1社ですべてのニーズを満たすところはない」ということが挙げられる。だからこそ、たとえばアクセスポイントや料金などには非常に満足しているが、ホームページ容量やコンテンツに不満が残るといったことが起こりうるわけだ。

これまで本誌では、そうした場合にはある程度、料金などの基本部分を犠牲にしても、もっとも重要なニーズを優先させて1社を選ぶか、またはそれぞれのニーズを満たす複数のプロバイダーに加入するのが正解だとしてきた。

しかし、今年はちょっと考え方を変えてみよう。自分のニーズをすべて満たすことをプロバイダー選びの「制約」とするのではなく、もっと自由に選ぶのだ。そのために活用したいのが、接続からホームページ用スペースまですべてがセットになった通常のプロバイダーと違って、「メールだけ」、「ホームページ用スペースだけ」を提供する「専門サービス」業者だ。基本となる接続以外のニーズをこうした専門サービスで満たせれば、基本となるニーズについては少しも犠牲にすることなく、より広い範囲から心ゆくまで吟味して選べるようになるだろう。

自分の目的に合わせて専門サービスを使い分けて自由にプロバイダーを選ぶ。それが2000年流の新しいプロバイダーの選び方なのだ。

どうしてもここのコンテンツが使いたい！

以前は、利用したいコンテンツがある場合、そのサービスを提供しているプロバイダーを使うのがよしとされてきたが、今日ではコンテンツが充実したプロバイダーの多くには「コンテンツ会員」という制度がある。これはインターネット接続はできない（あるいは充実していない）が、一般会員と同様に専用コンテンツが利用できるというものだ。すべての基本コンテンツが使えるかわりに月会費がかかるタイプと、利用した有料サービスの料金だけ支払えばよいタイプとがある。こうした仕組みを使えば、接続用とコンテンツ用のプロバイダーを分けて考えられるので、コンテンツに縛られることなく自由にプロバイダーが選べるだろう。

ただし、214ページで既述のように、アクセス速度はコンテンツを置いてあるプロバイダーを使ってアクセスしたほうが速いので、ひんぱんに利用したいコンテンツがある場合には同一のプロバイダーを使ったほうがいいだろう。

コンテンツ会員制度のあるおもなプロバイダーの一覧

	コース名	初期費用	月額料金	ダイアルアップ接続	備考
ニューコアラ Jump www.coara.or.jp	コンテンツ会員	\3,000	\1,000	不可	有料、無料のコンテンツサービスを受けるためのサービス。メールの利用も可能。
ぷらら Jump www.plala.or.jp	ライト会員	無料	無料	5円/分	プレミアム会員には1,200円分の有料コンテンツ利用権が付いてくる。なお、両会員ともメールの利用も可能で、2:00～23:00までの時間は「ぷらら」内を利用する場合に限り接続料も無料。
	プレミアム会員	無料	\800		
@Nifty Jump www.nifty.com	オープンコース	無料	\1,200	10円／分	メール、フォーラム、その他コンテンツを利用できるオープンコースを設置。
BIGLOBE Jump www.biglobe.ne.jp	るんるんコース	無料	無料	不可	接続以外、メールやHPなどすべてのサービスが受けられる。
JUSTNET Jump www.justnet.ne.jp	コンテンツ会員	無料	無料	不可	クレジットカード情報の登録が必要。無料コンテンツのみ利用の場合は、登録しなくてもよい。
So-net Jump www.so-net.ne.jp	コンテンツ会員	無料	無料	不可	クレジットカード番号をSmashサービスに登録することで有料コンテンツが利用可能になる。

コンテンツ：一般的に英語では「内容」を意味する。インターネットやマルチメディアの世界では、文章や動画、音声、静止画などの素材やそれらで組み合わされるもの（ウェブページなど）をコンテンツと呼ぶ。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D ©1994-2007 Impress R&D

複数のメールアカウントが欲しい！

通常、プロバイダーからユーザーに提供されるメールアカウントは1つだけなので、家族全員で個別アドレスを使ったり、用途ごとにアドレスを使い分けたりする場合には足りない。これまではこうした場合、最初から複数のアカウントをくれるプロバイダーを優先的に選んでいたのではないだろうか。

しかし、これからはこうした場合には無料メールを活用したい。これは個人情報を登録したり、広告メールが届くなどの条件がある代わりに無料でメールを使えるというものだ。その多くはブラウザーを使ってどのパソコンからでもアクセスできるタイプだが、POPを使って通常のメールソフトを利用できるタイプも増えている。これならたとえばポストペットなども利用できる。どちらがいいかは一長一短なので用途に合わせて使い分けるといいだろう。

ホームページ容量が多く欲しい！ CGIやSSIが使いたい！

充実したホームページを作りたい人にとってホームページ用のディスク容量は切実な問題だ。しかし、多くのプロバイダーでは、ユーザー領域に5～10Mバイト程度しか用意していないため、これまでこうした人には最初からディスク容量が大きなプロバイダーが最適とされてきた。

また、掲示板などのインタラクティブな仕組みをホームページに掲載するにはCGIやSSIへの対応が必要だが、これらの利用を制限するプロバイダーは多く、ホームページを重視する人にとってのプロバイダー選びはかなり制約の多い大変なものだった。

しかし、ホスティング専門のサービスを利用すればこうした「制約」から容易に解放されて自由にプロバイダーを選べるようになる。ここでは、比較的安価に利用できる個人向けのホスティング専門のサービスを下にリストアップしてみた。中には年間8,000円（月額約666円）程度で100Mバイトもの容量を使えるサービスも存在する。さらに独自ドメインの無償提供や高速バックボーンへの接続など、プロバイダーにはないメリットが用意されているところもある。確かに別途月額料金はかかるが、プロバイダーでもディスク容量を拡大すれば、追加料金が必要になることを考えれば、回線や保守面でも有利な専門サービスの方がお得ではないだろうか。

なお、ホームページに費用をかけたくないという人は無料ホームページサービスを利用するのも手だ。広告の表示義務などの条件はあるが、なかにはCGIが使えるところもあるので、うまく使えばより幅広いプロバイダー選びができるようになるだろう。

おもな無料メールサービスの一覧

	URL	種類	容量	条件	備考
インフォシークメール	Jump www.infoseek.co.jp	Web	3MB	広告バナー表示	メンバーサービスへの登録必須
ザクメール	Jump xaque.com	POP、Web	3MB	広告バナー表示	フィルタリング、カレンダー対応
マルチメールサービスAnet	Jump www.anet.ne.jp	POP、Web	1MB	広告メール、アンケート	有料でFAX転送サービスもある
Exciteメール	Jump www.excite.co.jp	Web	3MB	広告バナー表示	5つまでメールボックスが持てる
ExMail	Jump www.expart.ne.jp	POP、Web	10MB	広告メール	複数アカウント取得可能
FreeMail	Jump www.freemail.ne.jp	POP	3MB	広告メール	Webでの閲覧も可能
goo FreeMail	Jump freemail.goo.ne.jp	Web	3MB	広告バナー表示	スパムメール防止機能
HotMail	Jump www.hotmail.co.jp	Web	2MB	広告バナー表示	OutlookExpress5.0使用可能
LYCOSメール（MAILCITY）	Jump mailcity.lycos.co.jp	POP、Web	4MB	広告バナー表示	スパムメール防止機能
NIC-name.net	Jump NIC-name.com	POP、Web	5MB	特になし	5MBまでHPの作成も可能
Office CAB	Jump am.to.fm	POP	5MB	広告メール	複数アカウント取得可能
ProntMail	Jump www.prontomail.ne.jp	POP、Web	無制限	広告バナー表示	アドレスブック機能あり
RobotMail	Jump new.robotmail.ne.jp	POP、Web	5MB	広告バナー表示	自動転送機能
Yahoo!メール	Jump my.yahoo.co.jp/ymail/	Web	3MB	広告バナー表示	MyYahoo!から登録

おもな無料ホームページサービスの一覧

	容量	商用利用	ミラー利用	アップロード方法	CGI・SSI	カウンター	ゲストブック	掲示板	チャット	条件
cybertown Jump www.cybertown.co.jp	10MB	○	○	FTP	×	○	準備中	○	×	画面上部に大きな広告
DEGITAL@NET Jump degital.net	5MB	○	○	FTP	○（SSI×）	×	準備中	準備中	×	ページ上にツールバーを表示
freeweb Jump www.freeweb.ne.jp	20MB	○（認可制）	○	FTP	○	-	-	-	×	広告バナーを表示
Geocities Japan Jump www.geocities.co.jp	12MB	×	×	FTP、ブラウザー	×	○	○	○	×	バナー広告が入る
hello Jump www.hello.co.jp	2MB	×	×	FTP、ブラウザー	×	○	○	○	○	上部にフレームで広告
HOOPS! Jump www.hoops.ne.jp	20MB	○	○	FTP、ブラウザー	×	○	未提供	未提供	未提供	バナー広告の掲載は禁止
Rocket Beach Jump www.rocketbeach.com	無制限	○	×	FTP	○（SSI×）	-	-	-	○	個人、グループ、Eコマースによって異なる
Tripod Japan Jump www.tripod.co.jp	12MB	○	○	FTP、ブラウザー	×	○	○	×	×	広告が入る、毎月の更新義務あり
User Plaza Jump www.users.to	2MB	×	×	FTP	○（SSI×）	○	○	○	○	なし

おもな低額ホスティングサービス提供者の一覧

		コース名	容量	バックボーン	転送量の制限	初期費用	月額費用	メールアカウント数
大容量スペースが安く使える	アドミラルシステムホスティングサービス Jump www.asj.ne.jp	エコノミーサービス	20MB	OCNに6Mbpsで接続	無制限	\5,000	\2,500	10
		スタンダードサービス	50MB			\10,000	\4,500	50
		ビジネスサービス	100MB				\7,200	100
	インターQ　個人向け格安レンタルサーバー Jump secure.discount-domain.com/cgi-bin/hosting/hosting.cgi	「お名前.com」ホームページお預かりサービス	20MB	JPIXに20Mbpsで接続	3GB/月	\3,000	\3,000	別料金
	さくらインターネット　さくらウェブ Jump www.sakura.ad.jp	ライト	30MB	計650Mbps	無制限	なし	年額6,000	1
		アカデミック	100MB				年額8,000	
		スタンダード	100MB				年額10,000	
	KSIインターネットサービス Jump www.ksi.ne.jp	エントリー	40MB	OMP（大阪メディアポート）に6Mbpsで接続	無制限	\10,000	\2,500	20
		ビジネス100	100MB				\4,500	50
		ビジネス300	300MB				\9,500	100
	VC-net Jump www.vc.-net.ne.jp	海外レンタルサーバーコース	20MB	日米45Mbps	800MB/日	\10,000	\5,000	20
		エコノミー	20MB			\20,000	\7,000	10
		スタンダード	50MB				\10,000	20
高速線バックボーンに接続している	アイル　バーチャルサーバプラン Jump home.isle.ne.jp	エントリー	15MB	NSPIX2に100Mbpsで接続	無制限	\9,000	\1,900	1
		スタンダード	40MB				\4,900	10
		ビジネス	100MB				\7,900	30
	AIR Internet Service Jump www.air.ne.jp	AIRweb FRONTIER	無制限	NSPIXP2に100Mbpsで接続	無制限	\13,000	\5,000	別料金
		AIRweb HighGrade	100MB			\38,000	\30,000	
	CPI Jump www.cpi.ad.jp	Personal1	50MB	KDDのバックボーンに光ファイバーで直結	3GB/月	\20,000	\4,500	10
		Company1	100MB		6GB/月		\13,500	40
		Company2	150MB		無制限		\20,000	60
	NTTPCコミュニケーションズ　WebARENAsuite Jump web.arena.ne.jp/suite/	個人向け	25MB	NTTPCの高速バックボーンネットワークに直結	無制限	\3,000	\3,500	自由
		法人向け	25MB			\5,000	\5,800	

CGI（シー・ジー・アイ／Common Gateway Interface）：WWWサーバーで、外部プログラムを起動して、その結果をWWWクライアント（ブラウザー）に返す仕組み。ユーザーのリクエストによってウェブページの表示内容を変えたり、ユーザーの入力したフォームのデータをサーバー側へ読み込んだりできる。

インターネットマガジン／株式会社インプレス R&D
©1994-2000 Impress R&D

こんな手もある

2000年式 プロバイダー選びの裏ワザ

裏ワザその1 加入すればパソコンがもらえる？

無料パソコン付きプロバイダーサービス

最近では、インターネット接続にからんだ各種のサービスも増えきている。そこで今年はこれまで紹介してきた正攻法のプロバイダー選びのほかに、こうしたサービスを「裏ワザ」として使えるかどうかについても考えてみたい。これらをうまく使いこなせばこれまでよりもっとオトクにインターネットを使えるようになるだろう。まず、最初はインターネット接続とパソコンがセットになった「無料パソコン」サービスについてみてみよう。

まったくタダでもらえるわけではない

無料パソコンサービスとは、特定のプロバイダーに入ることを条件に無料でパソコンがもらえるというものだ。どうせプロバイダーに入るならパソコンがもらえた方がいいに決まってるが、どういった仕組みのサービスなのだろうか。

これは「無料」とはいっても完全にタダでパソコンがもらえるわけではない。ほとんどの場合、プロバイダー費の名目で月額料金がかかる。また、初期費用や契約停止時の買い取り、途中解約時の違約金が必要になるケースもあるほか、ときには広告の閲覧や特定オンラインモールで一定額以上の買い物をすることなどが義務となる場合もある。

こうした条件や提供されるパソコンの機種など詳細な条件は各サービスごとにそれぞれ異なる。また、サービスはプロバイダー、パソコンメーカー、そのほかのサービス会社などがそれぞれ本業に最適になるような形で提供しているので、一見するとそれぞれ別のサービス形態に見えるが、どれも基本的には「パソコンとインターネット接続をセットにした月額制のサービス」であると言っていいだろう。

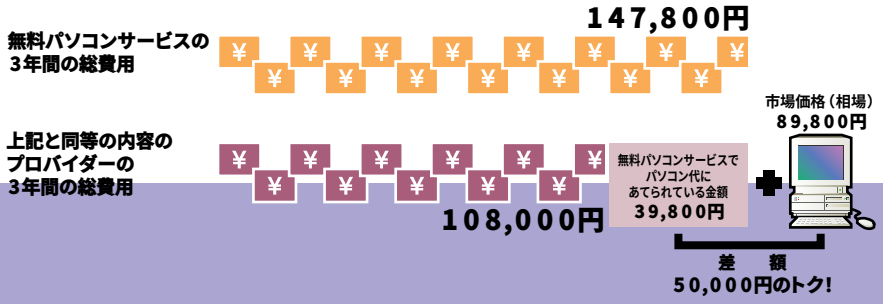
各サービスの内容を見極めて使うことが肝心

では、このサービスはホントにトクなのだろうか。1つの目安が「パソコンの価格」だ。つまり、無料パソコンサービスを数年間（ほとんどの場合最低3年間）使った時の料金と、同等の一般プロバイダーサービスを同期間使ったときの差額をパソコン代と仮定し、それが同機種の市場価格よりも安ければ差額分だけトクだし、高ければその分だけ損になる。ただし、これには金利やプロバイダー入会金などが考慮されていないので市場価格とまったく同額でもその分だけはトクする計算だ。たとえば下図のゲートウェイのサービスでは5万円のトクになる。

なかには、割高に感じるサービスもあるが、高額なパソコン代を一括で払わなくてよいうえに、最初から設定されていることや保守点検サービスが付いることも考えると、これからパソコンを買ってインターネットを始めようという初心者にはかなりのメリットになるはずだ。

いずれにしろ、無料パソコンサービスはその内容をよく見極めたうえで、パソコン代も含めて考えれば、より安価にインターネットを始められる裏ワザとなりうるだろう。

無料パソコンサービスのオトク度（ゲートウェイスペシャルネットパックの場合）



オンラインモール：ウェブ上で商品やサービスを提供するオンラインショップを複数集めて1つの入り口から各店舗で買い物ができるようにした仕組み。しかし、どの店で買っても共通の方式で支払えるように統一されたインターフェイスのものがある一方で、単にリンクしているだけで各店舗の作りがバラバラなものとがあるなど、その定義は確立されていない。

インターネットマガジン／株式会社インプレス
©1994-2000 impress Inc.

おもな無料パソコンサービスの一覧

日本ゲートウェイ

ゲートウェイスペシャルネットパック

Jump www.gw2k.co.jp/pcshop/ad/gnp.html

初期額	\39,800
月額	\3,000
提供されるパソコン	GatewayNeo
プロバイダー	ゲートウェイネット
通信条件	使い放題
契約期間	3年間
3年間の支払い総額	\147,800
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）	
プロバイダー費用相当*1（3,000円×36か月）	\108,000
パソコン代として考えられる金額	\39,800

コメント

考え方としては、ゲートウェイネットに加入することで、定価89,800円のパソコンが50,000円の割引になるという形だ。しかも、3年間の修理部品無償保証や24時間サポートなどがあり初心者にやさしい。ゲートウェイネットはホームページ容量が初期設定で100MB付いているなどの特徴がある。パソコンを買って一からインターネットを始めようという人には特にオススメ。

OCN

OCN PCパック

Jump www.ocn.ne.jp/ocnweb/aptiva/title.html

初期額	\0	
月額	\3,980	\5,980
提供されるパソコン	Aptiva24L	ThinkPadiシリーズ1424
プロバイダー	OCN	
通信条件	月100時間まで、超過分は3円／分	
契約期間	3年間	
3年間の支払い総額	\173,280	\245,280
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）		
プロバイダー費用相当*2（2,800円×36か月）	\100,800	\100,800
パソコン代として考えられる金額	\110,480	\182,480

コメント

基本的にはリース契約となる。3年間の契約終了後は月額2,800円（ThinkPadは3,000円）で再契約するか、38,000円で買い取る、あるいは最新機種で再契約の3つの方法が選べる。パソコン代は相場と比べても低価格。3年間の無料保守や1年間の無料サポートがついている点が初心者にはおトク。他の多くのサービス同様3年以内の解約の場合は、違約金が発生する。

エフアイシー販売

CTO FreePC399

Jump www.cto.co.jp/freepc399.htm

初期額	\20,000
月額	\3,990
提供されるパソコン	オリジナル
プロバイダー	ODN
通信条件	使い放題
契約期間	3年間
3年間の支払い総額	\163,640
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）	
プロバイダー費用相当*3（1,950円×36か月）	\70,200
パソコン代として考えられる金額	\113,440

コメント

提携プロバイダー「ODN」との契約や提携クレジット「CTO」カードの加入などが自由に選べるのがポイント。制約が非常に少ないのが特徴だ。その分、「パソコン代」にあたる金額も若干高めとなっている。オリジナルパソコンのスペックが「パソコン代」比べて安いと感じるならおトクなシステムといえる。BTOによるパソコンのスペック変更やアップグレードが可能なのも特徴だ。

NTT-ME

128インターネットパック

Jump me.mni128.ne.jp/%7Entt-me/10/

初期額	\0	\0
月額	\4,980	\11,980
提供されるパソコン	PCC-CTA45BME	FMV-BIBLO NE3/45LK
プロバイダー	WAKWAK	
通信条件	月100時間まで、超過分は3円／分	
契約期間	3年間	
3年間の支払い総額	\179,280	\431,280
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）		
プロバイダー費用相当*4（3,000円×36か月）	\108,000	\108,000
パソコン代として考えられる金額	\71,280	\323,280

コメント

ISDN回線の契約とパソコン、TA、プロバイダーサービスを組み合わせたサービス。パソコンは、デスクトップ9種類、ノートPC6台から自由に選べるが、月額の費用は選んだ機種によって異なってくる。上記は、もっとも安い機種と高い機種の例。それぞれスペックと総額、パソコン代を見比べたい。機器の3年保証がつくのと、オプションでプリンターなどをつけられる（ただしオプションは一括払いのみ）。なお、ISDN以外でも利用できる。

オーテック

インターネットパソコン　i-PC

Jump www.ohtec.co.jp/ipc.htm

初期額	\0
月額	\3,980
提供されるパソコン	オリジナル
プロバイダー	ぷらら
通信条件	使い放題
契約期間	3年間
3年間の支払い総額	\143,280
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）	
プロバイダー費用相当*5（1,950円×36か月）	\70,200
パソコン代として考えられる金額	\73,080

コメント

オリジナルパソコンは、セレロン466MHz、HDD8.4GBを搭載。月額料金は、アプラス社との契約になるため、解約時は一括清算となる。専用のアプラスカードに入会する必要がある（入会金、年会費ともに無料）。3年間の無料保守と修理の際のピックアップサービスがついてくるのが特徴。

ティアイエス・アイ・メディア

iM Club

Jump www.tis-imedia.co.jp/imc/

初期額	\20,000	
月額	\3,980	\6,980
提供されるパソコン	オリジナルPC	日立FLORA220CX
プロバイダー	iM-net（自社）	
通信条件	使い放題	
契約期間	3年間	
3年間の支払い総額	\163,280	\271,280
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）		
プロバイダー費用相当*6（1,950円×36か月）	\70,200	
パソコン代として考えられる金額	\113,080	\201,080

コメント

iM Clubメンバーズカードに入会することで、プロバイダー付きのパソコンが提供される。パソコンはスタンダードコース、液晶モニターコース、ノートPCコースの3つ。上の2つはスタンダードとノートPC各コースの価格。その他、アンケートへの回答の義務がある。18歳以上1万人限定。iM-netのアクセスポイントは全国130か所。

ドリームネット

ドコデモインターネット（ドコデモパック LB-5）

Jump www.mbn.or.jp/info/news/other/news_i8.html

初期額	\0
月額	\4,980
提供されるパソコン	リブレットff1100V
プロバイダー	ドリームネット
通信条件	5時間まで超過分は7円／分
契約期間	3年間
3年間の支払い総額	\179,280
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）	
プロバイダー費用相当*7（480円×36か月）	\17,280
パソコン代として考えられる金額	\162,000

コメント

メールによるアンケートへの回答とクレジットカードでの支払いができることが条件。3月中旬現在では、上の「パソコン代……」が実売価格とほぼ変わらないので、逆にアンケートに応える手間が増えるだけといえる。ローンで購入するよりはトクかも。関東甲信越地域の在住者のみ1万人限定。現在は申し込み受付を休止しているが随時、同様のサービスを始める予定だ。

コンパック＆日本テレコム

Compaq Prosignia Desktop 320 ODN PAQ

Jump www.compaq.co.jp/directplus/odn/

初期額	\0	
月額	\3,300	\3,950
提供されるパソコン	Prosignia Desktop 320シリーズ	
プロバイダー	ODNバリュープラン	ODNベーシックプラン
通信条件	使い放題	
契約期間	5年間	
5年間の支払い総額	\198,000	\237,000
損益分岐点（パソコン代が相場よりも安ければおトク）		
プロバイダー費用相当*8	\78,000	\117,000
パソコン代として考えられる金額	\120,000	\120,000

コメント

両コースの違いはプロバイダーコースのみ。バリュープランは地域アクセスポイントが5:00～22:00までしか使えない（全国共通アクセスポイントは24時間OK）が、ベーシックプランはともに24時間OK。パソコンはBTOでスペックの変更ができ、最小構成の場合は94,800円。パソコン代金の支払いは一括やリース、レンタルにもできる。分割の場合でも各種クレジットカードや引き落としなどが利用できる。解約によるパソコンの返品は不可。

＊1：ゲートウェイネットの「月々お支払いコース」（月額固定3,000円）で計算。　＊2：OCNの「ダイヤルアクセスロング」（月100時間まで2,800円、以後3円／分）で計算。　＊3：ODNの「ベーシックプラン」（月額固定1,950円）で計算。　＊4：wakwakにはこの内容に該当するコースがないので、同社の「WAKWAK ワイド」（月150時間まで3,000円、以後3円／分）で計算。　＊5：ぷららにはこの内容に該当するコースがないので、他社の類似サービス（ODNベーシック）で計算。　＊6：iM Clubはサービス専用の独自サービスのため、他社の類似サービス（ODNベーシック）で計算。　＊7：ドリームネットの「M5プラン」（月5時間まで480円、以後7円／分）で計算。　＊8：このサービスのプロバイダー費用はバリュープランは月額固定1,300円、ベーシックプランは月額固定1,950円。

©1994-2007 Impress R&D

裏ワザその2　プロバイダー事業から割引サービスまで

知ってるアナタは得をする！ カード会社の新サービス

プロバイダーへの支払いの定番となるものがクレジットカードだ。しかし今や、各カード会社は単なる支払いの手段にとどまらず、インターネット利用者向けにさまざまなサービスを提供している。中には、独自でプロバイダー事業を開始している会社もあるほどだ。少しでもお得にインターネットを利用したい人は、カード会社のサービスも要チェックだ！

カード会社がプロバイダー事業に続々と参入！

口火を切ったのは住友VISAカードだ。既存のプロバイダーと提携し（提携先は非公開）、3月1日より“Vp@ssClubネット”のサービスを開始した Jump01。アクセスポイントは従量制130か所、定額制200か所を用意している。気になるバックボーンは、KDDの高速回線に100Mbpsで接続と決して遅くない。なかでも、定額制の「どっぷりコース」は使い放題で1,690円と、ほかのプロバイダーと比較してもお得な価格だ。このサービスを利用するには、住友VISAカード（一般カードの場合、年会費は1,250円）の会員になった上で「Vp@ssClub」に加入し（入会金・年会費無料）、「Vp@ssClubネット」に申込めばよい。プロバイダーサービスに関しては会費制をとっておらず、1か月に一度も接続しなかった場合は、定額制の「どっぷりコース」でも料金は無料になる。

後を追うのがダイエー系列のOMCカードの「eコレ！ねっと」だ Jump02。KDDの業務支援により、全国281か所のアクセスポイントを用意し、4月20日よりサービスを開始する。Vp@ssClubネットよりもさらに安く、月額1,500円で使い放題だ。住友VISAと同様に、このサービスを利用するためには、OMCカードもしくは「e-colle.comカード」に入会しなければならない（両方とも年会費1,000円）。e-colle.comカードは、三井海上火災保険との提携により、世界初のインターネット保険機能の付いたクレジットカードだ。さらに、カード利用額1,000円につき1ポイントを付与し、100点で500円、200点で1,000円、300点で1,500円を、請求時に割り引くサービスも用意している。

オンラインショッピングユーザーの獲得が狙い

Vp@assClubネットを利用するには、必然的にVp@ssClubに加入しなければならない。Vp@ssClubのサービスの1つとして、オンラインショッピングモール「V-Mall」が挙げられるが、そもそも住友VISAはカード会社なので、改めてカード番号などを入力しなくても、IDとパスワードだけで簡単にショッピングができる仕組みになっている。カードの利用状況がブラウザー上で参照できるのも便利なサービスだ。

OMCカードでは、サービスの開始と同時にポータルサイト「eコレ！ねっと」を立ち上げる。20～30代の女性をターゲットに、生活情報の総合サイトを目指すが、目玉はオンラインショッピングモール。Vp@ssClubと同じく、IDとパスワードだけで決済できるシステムを導入している。カードの利用状況などがウェブで見られるサービスの導入も、検討中とのことだ。

住友VISAもOMCカードも、ショッピングモールに重点を置いていると言えるだろう。要するに、両社の狙いはインターネット利用者の囲い込みと共に、あわよくば自社の運営するオンラインショッピングモールでどんどんカードを利用してもらうことにありそうだ。格安な料金体系はそのための「引き」と言えるだろう。

申込みは下記のURLから

Jump01 www.vpass.ne.jp

Jump02 www.e-colle.com（4月20日～）

サービスの体系

カード会社	サービス名	コース	料金	ISDN	アナログ	ホームページ容量
住友VISAカード	Vp@ssClubネット	どっぷりコース（定額制）	1,690円／月	64Kbps	56Kbps	-
		ちょこっとコース（従量制）	4円／分	64Kbps	56Kbps	-
OMCカード	eコレ！ねっと	定額制	1,500円／月	64Kbps	56Kbps	オプションサービスとして検討中

AOL、@niftyならセゾンカードがオススメ

プロバイダー各社から、さまざまな特典が付いたクレジットカードが提供されているのはご存じだろうか？　なかでもセゾンカードは、他社と比べて入会金や年会費などが一切かからないというメリットがある。無料でお得なサービスを利用できるというのは、かなり魅力的な話だ。プロバイダー選びに迷ったときは、こんな視点で考えてもいいだろう。

セゾンカードが提供しているプロバイダーカードは、@niftyとAOLの2社。プロバイダー料金の支払いに「アット・ニフティカード」を利用すると、1,000円につき1ポイントもらえるだけでなく、特典としてボーナスポイントがもらえる（右の表参照）。また、「AOLカード」では、今年中に入会した場合のみ、年内の利用料金が20パーセントOFFになるキャンペーンを実施中だ。

Jump www.saisoncard.co.jp/card/

セゾンの「アット・ニフティカード」及び「AOLカード」は上記のURLからオンラインで申込める（資料請求も可）。

アット・ニフティカードでもらえるボーナスポイント

1か月の接続料金	もらえるポイント数
950～1,999円	10ポイント
2,000～2,999円	20ポイント
3,000～4,999円	30ポイント
5,000円以上	50ポイント

※1ポイント＝5円のアット・ニフティ使用権と交換できる。

バックボーン：ネットワークの基幹となる回線のこと。たとえばプロバイダーの場合、NOC同士の接続や、上流プロバイダーやIX（相互接続点）への回線を指す。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

プロバイダー料金が最大60％OFF！

キャッシュバックサービスの実態に迫る

DCカードとJCBカードではプロバイダー料金の大規模な割引サービスを提供している。これは、カードの利用料金に応じて一定の割引率を設定し、プロバイダー料金からキャッシュバックされるシステムだ。JCBでは、同社のカードでの支払いが可能なプロバイダーのほぼすべてを対象に最大50パーセント、DCカードでは26社のプロバイダーを対象に最大60パーセントの割引率を設けている。これからプロバイダーを選ぶときには、こうしたサービスが利用できるかどうかも考慮したい。

キャッシュバックサービスの料金体系

1か月のカード利用額 DC	1か月のカード利用額 JCB	割引率
2～3万円未満		10%
3～5万円未満		20%
5～10万円未満		30%
10～15万円未満		40%
15～20万円	15万円以上	50%
20万円以上	-	60%

DCキャッシュバックサービス

DCカードでは26社のプロバイダーを対象に、接続料金が最大60パーセントOFFとなる「DCキャッシュバックサービス」を提供している。このサービスを利用するためには、DCカードの会員となり（一般カードの年会費は1,250円）、「DC Webサービス」のIDとパスワードを登録し、「DC Webサービス」内の「DCキャッシュバックサービス」に登録すればOKだ。すでに会員になっている人は、特にカードを切り替えたりする必要はない。ただし、キャッシュバックサービスに登録すると、「ハッピープレゼント」のポイントが自動的に「キャッシュバック対象ポイント」に移行するので、ハッピープレゼントのサービスは利用できなくなる。キャッシュバック率はカードの利用額に応じて決まり、翌月の引き落としの際に実施される（上の表参照）。また、キャッシュバックの対象となるプロバイダー料金の上限は4,000円までで、複数のプロバイダーを利用している場合も合わせて4,000円までとなる。

＜対応ISP＞ @nifty、ALLESNET、AOL、ASAHIネット、AT&Tビジネスインターネットサービス、AT&T WorldNet Service 、BIGLOBE、CYBER STATION、DION、DTI、IIJ4U、InfoSphere、KCOM、コジマネット、リムネット、NEWEB、OCN、Panasonic Hi-Ho、People、シャープスペースタウン、他　全26社（詳細は下記URLを参照）

Jump www.dccard.co.jp

JCB NET PLUS CARD

JCBでは、「JCB NETPLUS CARD」のサービスの1つとして接続料金のキャッシュバックを行っている。つまり、このサービスを利用するためには、すでにJCBの会員になっている人も、新しく「JCB NETPLUS CARD」に申し込む必要があるのだ。入会は無料で年会費は1,250円となるが、3月31日までに入会すると、初年度の年会費が無料になるキャンペーンを実施している。サービス自体は、カードの利用額に応じてキャッシュバック率が決まり、翌々月の引き落としの際に実施される仕組みだ。最大キャッシュバック率が50パーセントとDCカードより低いが、これは1か月に「20万円以上」利用した場合が設定されていないだけで、基本的にはDCカードのキャッシュバック率と変わらない（上の表参照）。しかも、キャッシュバックの対象となるプロバイダー料金の上限が6,000円と高い点は要チェックだ（複数のプロバイダーを利用している場合は、合計金額が対象になる）。さらに、このサービスが受けられるプロバイダー数は300社にのぼり、これはDCカードの10倍以上に当たる。

＜対応ISP＞ @nifty、ALLESNET、AOL、ASAHIネット、AT&Tビジネスインターネットサービス、AT&T WorldNet Service、ベッコアメインターネット、BIGLOBE、CYBER STATION、DION、DTI、DreamNet、Highway Internet、IIJ4U 、interQ MEMBERS、InfoSphere、JustNet、KCOM 、コジマネット、NeWeB、OCN、Panasonic Hi-HO、People 、リムネット、サクラネットワーク、SANNETインターネットサービス、シャープスペースタウン、So-net、ザクソンインターネット、ぷらら、他　約300社（詳細は下記URLを参照）

Jump www.jcb.co.jp/netplus/

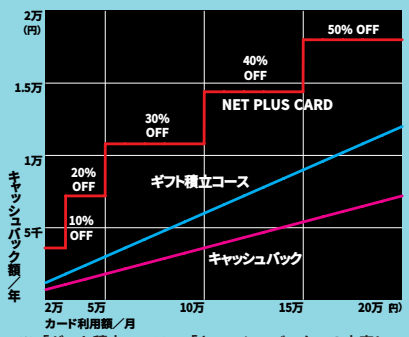
ポイントサービスとどちらがお得？

両社ともサービスの基本的な仕組みは同じ。よって、新規にカードを作る手間を考えても、プロバイダー料金の上限が高いJCBに軍配が上がりそうだ。なかでも、プラス1万円で2倍の割引率（20パーセント）となる、3万円使ったときが最も効率良いと言える。NET PLUS CARDの年会費は1,250円で、JCBの一般カードと同額だ。では、一般カードのポイントサービスとNET PLUS CARDのキャッシュバックサービスは、どちらがよりお得なのだろうか。

JCBには、1ポイント＝5円でJCBギフトカード（500円券と1,000円券の2種）に交換できる「JCBギフト積立コース」や、1ポイントを3円に換算して、カード利用額からマイナスする「キャッシュバック」など、さまざまな割引サービスがある。

どのサービスが一番お得なのかは、右のグラフを見れば一目瞭然だ。キャッシュバックの対象がプロバイダーへの支払いに限られるとは言え、NET PLUS CARDは断然お得なサービスと言えそうだ。

接続料金が3,000円/月の場合



※「ギフト積立コース」、「キャッシュバック」の内容については、「JOY JOYポイントプログラム ’99」による。

ID（アイ・ディー／identification）：コンピュータで何らかのサービスを利用する際に、利用者を識別するための名前。「アカウント」ともいう。パスワードと組み合わせれば、利用者が本人かどうかを認証できる。プロバイダーに入会すると、インターネット接続のためのIDとパスワードや、電子メールを受信するためのIDとパスワードを与えられる。

インターネットマガジン／株式会社インプレス/ZDBB
©1994-2000 Impress R&D

裏ワザその3　2000年の新トレンドとなるか

タダでインターネットにつなげる無料プロバイダーの実態

プロバイダー選びの究極の裏ワザともいえるのが無料プロバイダーだ。サービス提供者も徐々に増えて選べるようにもなってきた。それぞれ利用条件はあるものの、とにかく安さを優先したいというユーザーには願ってもないサービスだろう。しかし、タダだけに心配もある。回線の質は大丈夫か？　つながりやすさは？　また、利用条件の内容は？　ここでは、そうした疑問をチェックして無料プロバイダーの実態を探る。

気になる品質もいまのところ大丈夫

インターネットが普及を続ける中で、いまプロバイダーもその役割を大きく変化させている。回線は大容量化を中心とする品質の向上により安くなっているし、インターネットの使われ方も単にコンテンツを見る「娯楽」的な要素よりもECやオンライントレードのような「ビジネス」的な要素が強くなってきている。そうした背景から近い将来にはインターネットへの接続サービス自体は、たとえばECサイトなどのサービスの1つとして提供される可能性も大きくなっている。それを象徴する1つの動きが、無料プロバイダーの登場だ。これは広告収益などを収入源に、無料で接続サービスを提供するものだ。加入に際しては、「女性限定」や「テレホーダイへの加入禁止」、「専用接続ソフトの使用」など、いくつかの条件をクリアする必要はあるが、あとは通常のプロバイダーのように使える。

気になるパフォーマンスだが、本誌が2000年3月号（1月29日発売）でチェックしたときには、つながりやすさも速度も一般のプロバイダーと比べても別段に劣るものではなかった。無料なだけに今後ユーザー数が劇増するとどうなるかはわからないが、現状ではテレホーダイタイム以外に軽く利用する程度なら、十分「使える」といえるだろう。

○ココがウレシイ！

- とにかくタダ。
- いまのところは品質も大丈夫。
- アクセスポイントなども意外に豊富。
- アナログ／ISDNの両方に対応可能。

×ココが心配！

- 今後のユーザー数の増加によっては品質の低下が心配。
- 個人情報の使われ方が不明のところも。
- 時間限定やテレホーダイ利用不可などの条件がある。

おもな無料プロバイダーの一覧

	運用会社	アクセスポイント数	通信速度	メールアカウント	利用条件	その他	HPサービス
オーリック Jump www.auric.co.jp	オーリック・ウェブ・ジャパン	東京03・大阪06・京都075・KDDの全国均一料金サービスあり	ISDN64K、アナログ56Kbpsに対応	なし（年間2,000円で利用可能）	ブラウザー起動時30秒間と15分に一回、広告ウィンドウ表示	メールサービスの容量は2MB	4月よりサービスを予定
Freecom Jump www.freecom.ne.jp	トライ・ネットワーク・インターナショナル	当初は東京03のみ。4月以降、札幌011・仙台022・大宮048・川崎044・横浜045・名古屋052・大阪06・福岡092が追加。5月以降さらに12社が追加。	ISDN64K、アナログ56Kbpsに対応	アカウント数無制限（10MB）	未定（3月20日より募集開始）	メールアカウント追加発行料も無料	ホームページ容量50MB、CGI利用可
Freeway Jump freeway.try-net.or.jp	トライ・ネットワーク・インターナショナル	東京03のみ	ISDN64K、アナログ56Kbpsに対応	1つ	東京03地域5000人限定。入会金4800円で3年間無料、テレホーダイ加入禁止、広告メールの送付	解約希望はメールにて受け付け（入会金の返金は不可）	別サービスのfreewebを利用すれば無料（広告付き）
HuDiNCLUB Jump www.hudin.ne.jp/club/	ヒューディン	日本テレコムの全国均一料金サービス	不明	1つ（5MB）	1年間のみ	1年以上使う場合は独自オンラインショップで1万円以上購入する必要あり	なし
livedoor Jump www.livedoor.com	ライブドア	東京03・千葉043・横浜045・名古屋052・大阪06・京都075・神戸078・日本テレコムの全国均一料金サービスあり	ISDN64K、アナログ56Kbpsに対応	1つ（10MB）	専用接続ソフトの使用、常時広告ウィンドウの表示。	Windows95/98/NTのみ	計画中
Shes.net Jump www.ascii.co.jp/shes/	アスキー	30か所	ISDN64K、アナログ56Kbpsに対応	1つ（10MB）	女性限定、6時～22時のみ、アンケートへの回答	アンケートへの未回答、1ヶ月間アクセスがない場合、メールでの連絡が取れない場合は解約	なし
ValueNet Jump www.valuenet.ne.jp	ヴァリューインターナショナル	147か所	ISDN64K、アナログ56Kbpsに対応	1つ	2万人限定、専用の「ValueNetブラウザー」を使用	Windows95/98/NTのみ	提供予定あり

オンライントレード：インターネットなどの通信回線を使って取引を行うこと。広義のオンライントレードにはインターネット以外の専用回線などを使った取引も含むが、ここではインターネットを使った証券取引のことを指している。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

編集部が本音で予測!

2000年に生き残るプロバイダーはこれだ

入会すれば、長くつきあっていくことになるプロバイダー。できれば将来性のあるところを選びたい。最後に、プロバイダーのライバルとなる新技術や新サービスを見ながら、プロバイダーが今後生き残っていく条件について考えてみよう。

ライバル1 無料サービス

この特集では例年とは違い、プロバイダーのホームページ機能の比較は掲載しなかった。231ページで紹介したように、無料のホームページ提供サービスや、有料で高機能なホスティングサービスが数多く登場している現在、プロバイダーのホームページ機能にこだわる必要は必ずしもないからだ。無料メーリングリストや個人情報管理など、ウェブ上では無料サービスが花盛りだ。プロバイダーのサービスを使うのはインターネット接続だけ、という人も結構いるかもしれない。プロバイダーが電子メールやホームページなどの機能でアピールするのは、よほど特徴がないと難しくなりそうだ。さらに、今回のアンケート結果では無料プロバイダーのlivedoorが13位にランクインした。接続サービスさえ無料が一般的になる可能性もある。

ライバル2 高速常時接続

今回のアンケート結果では、CATVインターネットのユーザーが4.4%を占めた。CATVユーザーは今後も順調に増加する見込みであり、ADSL、NTTのIP接続サービス、無線インターネットも含めて、今年は常時高速接続がブレイクする年になりそうだ。これらの接続サービスを利用するには、一般のプロバイダーに加入する必要はない(64KbpsのIP接続サービスを除く)。ユーザーは一度高速接続のインターネット環境に慣れてしまえば、もうあと戻りはできないだろう。ダイアルアップで接続する今のプロバイダーは魅力がなくなっていくかもしれない。こうした時代を見越して、So-netはADSLへの参入をすでに表明している。ほかにもW-CDMAへのいち早い対応が生き残りの分かれ目になるかもしれない。

ライバル3 携帯電話

「iモードがユーザー数で@niftyを抜いて日本一のプロバイダーになった」という報道は、すでに目にしているだろう。携帯電話単体でのインターネット利用とパソコンを使ったプロバイダーへの接続を単純に比較することはできないにせよ、「メールが使えればいい」という人には、携帯電話があれば十分だ。iモードやEZウェブ/EZアクセス対応の携帯電話なら、ウェブの閲覧もできる。今後のインターネット人口は、携帯電話などパソコン以外のシンプルな機器に支えられて増加していくことになるだろう。そうなったとき、パソコンユーザーを中心とした今のプロバイダーは、会員数の増加が頭打ちになる可能性もある。

活路1 コンテンツの快適さ

それではプロバイダーが生き残っていくための鍵はどこにあるだろうか。1つには多くのコンテンツを快適に利用できる環境を提供することだ。ここでいうコンテンツとは、プロバイダーが独自に提供しているコンテンツサービスではない。検索サイトやニュースサイト、ECサイトなどインターネットユーザーの多くが日々利用するメガコンテンツを快適に利用できるかどうかということだ。アクセスラインが高速化されても、目的のサイトにたどり着くまでが遅くては意味がない。これにはプロバイダーの設備やバックボーンの容量ももちろん関係してくるが、コンテンツまでのネットワーク的な距離や経路が有利なプロバイダーが強みを発揮するだろう。214ページで紹介したように、多くの人気サイトをホスティングしているInfoSphereやPSINetのようなデータセンターを兼ね備えるプロバイダーと、そこに直接つながっているプロバイダーに注目したい。

活路2 個性的なサービス

料金の安さだけを売りにするプロバイダーは、自社でインフラを持っている通信事業者が運営するプロバイダーには、体力ではかなわないだろう。そもそも単純に安さだけを比較するなら、無料プロバイダーにはかなわない。インターネットをめぐる環境が激変する中でプロバイダーが生き残っていくには、横並びの料金体系やサービスではなく、ユーザーが注目するような価値をアピールしていく必要がある。「プロバイダー」としてではなく、「インターネットブランド」としてのイメージアップが必要だ。たとえば、料金やスピードがほかのプロバイダーと変わらなくても、「ポストペット」を持っているSo-netはやはり強い。快適なインターネット接続の提供は当然だが、それに加えてプロバイダーが個性的なサービスを打ち出していけば、ユーザーの支持を集め続けることができるだろう。

活路3 専用デバイスで売る

最後にかなり大胆な予想をしてみよう。特定の用途に特化した専用機器を作り、接続サービスをそこに組み合わせておくという戦略だ。ポケットボードとマスターネットの組み合わせを思い浮かべればいい。たとえば、ポストペット専用機器やE*TRADE専用のオンライントレーディング端末、ICQ専用チャット端末などを作ってしまう。ユーザーはスイッチを入れるだけでインターネットにつながる。もちろん、プロバイダーはデバイスにプリセットされた1社限定だ。このくらい大胆な作戦に打ってでなくては、iモードには対抗できない。見えない接続サービスが膨大な顧客をゲットする可能性は大いにあると思うのだが。

ADSL(エー・ディー・エス・エル/Asymmetric Digital Subscriber Line):既存の電話線を利用した高速デジタルデータ通信技術。下り(電話局→家庭)の伝送速度は数Mbpsで、上り(家庭→電話局)の伝送速度の10〜100倍になるのが特徴。日本ではNTT東日本と西日本、東京めたりっく通信などが試験サービスを開始している。

インターネットマガジン/株式会社インプレスR&D
© Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.